

<平成30年度>

第5回 理事会議案書

平成30年 9月20日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

平成30年度
第5回理事会 議事次第

一般社団法人 全国 鐵 構 工 業 協 会

場 所： 鉄 鋼 会 館 805 号室

日 時： 平成 30 年 9 月 20 日 (木)
12:00～14:30

1. 開会の辞

2. 定足数確認報告 (定款第 36 条)

3. 会長挨拶

4. 前回理事会議事録の確認

5. 審議事項

資 料

第 1 号議案 「会長の任期に関する運用細則[内規]」
の制定について ----- 理 30-5-議 1 <p3-4>

6. 報告事項

- (1) 賛助会員との懇談会実施要領 ----- 理 30-5-報 1(口頭)
- (2) 青年部会各県代表者との意見交換会実施要領 ----- 理 30-5-報 2(口頭)
- (3) 鉄建協との共同陳情実施報告 ----- 理 30-5-報 3(別冊)
- (4) 西日本豪雨災害 被災状況及び災害見舞金等対応について --- 理 30-5-報 4 <p6>
- (5) クレーン運転士免許の改善要望について----- 理 30-5-報 5 <p7>
(東北支部からの要望)
- (6) 鉄骨技術者教育センター設立準備進捗状況 ----- 理 30-5-報 6 <p8>
- (7) 女性活用策検討特別委員会設置(案)について ----- 理 30-5-報 7(口頭)
- (8) 委員会報告
 - ①運営委員会 ----- 理 30-5-報 8①<p9-18>
 - ②技術委員会 ----- 理 30-5-報 8②<p19-26>
- (9) その他

7. その他の事項

- (1) 構成員登録状況 ----- 理 30-5-他 1 <p28-32>
- (2) 着工面積と推計鉄骨需要量 ----- 理 30-5-他 2 <p33>
- (3) 主要会議日程 ----- 理 30-5-他 3 <p34>
- (4) 支部報告 ----- 理 30-5-他 4 <p35-52>
- (5) その他

8. 閉会の辞

以上

第1号議案 「会長の任期に関する運用細則〔内規〕」の制定について

定款23条第3項（役員を選任）に関して、「会長の任期に関する運用細則〔内規〕」を、[第1号議案]別紙1のとおり制定することについて、承認の決議をいただきたい。

平成 30 年度 第5回理事会 第 1 号議案 [別紙 1]

平成30年 9月 20日

「会長の任期に関する運用細則 [内規]」の制定について

1. 制定理由

- 会長の選定に関する定款の規定は以下のとおりで、任期に関する規定はない。
- 任期に対する考えは、協会運営の安定感への期待や、適切な後継者の有無等により様々であるが、任期の目安を明確化することで協会運営のマンネリ化の防止、人事刷新による活性化等が促され、また、選定が容易になり、就任受諾を促す効果も期待できる。
 - 〔会長の選定に関する定款の規定〕
 - ・会長は、理事会の決議によって理事の中から選定する(23 条第 3 項)
 - ・理事は再任を妨げない(26 条第 1 項)
- 上記の考えに基づき、会長の任期に関する規定を設け、改選時の状況に応じて適切に対応できるよう、基本となる考え方を定める。

2. 具体案

制定：平成30年 9月 日

会長の任期に関する運用細則 [内規] (案)

(目的)

第 1 条 本規程は、一般社団法人全国鐵構工業協会 定款 23 条第 3 項に定める会長の選定に関し、その運用について定める。

(会長の任期)

第2条 会長の任期は2期までとする。ただし特段の事情があり、万やむを得ないと認められる場合は 1期のみ延長可能(最長3期)とする。

以上

以上

〔参考1： 会長の任期に関する定款の規定〕

（役員の選任）

第 23 条 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。

2（省略）

3 会長、副会長、専務理事及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

4（省略）

（役員の任期）

第 26 条 理事の任期は、選任後 2 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する通常総会の終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。

〔参考2： 副会長の任期〕

○副会長の任期制限は、以下の理由により設けないこととする。

- ・将来の会長候補としての能力、人望等を備えながら、年齢等の理由で副会長に留まっている場合、任期制限により会長就任を逸することとなり、人材を活かすことを阻害する懸念がある。
- ・現在、副会長の選定は、会長の補佐役としての適任者を、協会運営への意欲・能力、地域バランス、会長への協力姿勢等を勘案したうえで、会長自らが人選し、理事会の決議により行っている。

以上

報 告 事 項

2018年9月20日

西日本豪雨災害 被災状況及び災害見舞金等対応について

1. 被災状況

(*各都道府県正会員からのご報告に基づき、集約・整理した情報)

	中国				四国		九州	合計	被害内容
	岡山	広島	山口	他2県	愛媛	他3県	8県		
操業停止		2							大量の土砂流入、機器類埋没、断水・停電等による、(長期的)操業停止
機械損壊	5	2	1		1				浸水被害による機器損壊等による、(数日間の)操業停止。
その他							5		風雨による工場建屋等への損害発生
	5	4	1	0	1	0	5	16	

2. 全構協の支援実績(過去の激甚災害への対応)

対象	年月	災害	支援金	会費減免	支援内容(詳細・補足)
阪神淡路	1995.1	地震	○	○	
東日本	2011.3	地震	○	○	義援金3,000万円(被災状況(評価)に応じ配分) 被災企業(44社)への会費減免(一部2014年まで継続)
北関東	2015.9	豪雨	(なし)	○	被災企業(1社)への会費減免 ※見舞金なし
熊本	2016.4	地震	○	(なし)	見舞金100万円(具体的な配分は組合判断)
九州北部	2017.7	豪雨	(なし)	(なし)	地域の被害あるも、構成員企業へは対応なし

3. 対応・支援内容検討(案)

1) 全構協の対応の考え方

- ・激甚災害に指定された災害について、地域の被害状況、個別構成員企業の被災内容等を、総合的に勘案し、支援金(見舞金、義援金)、会費減免等の支援内容を判断する。
- ・今回、「平成30年7月豪雨災害(*激甚災害指定)」については、西日本(中国、四国、九州)を中心に、甚大な被害が発生しており、災害支援の基本的考え方に基づき、具体的な支援を実施する。
- ・具体的な支援内容は、「災害見舞金」、「会費減免」とする。

災害 見舞金	各県正会員から提供された被害情報に基づき、構成員企業の被災レベルを2水準(操業停止状況等)に区分。被災企業数と個別被災状況を勘案し、県単位の災害見舞金総額を決定。					
	※ 各県での具体的な災害見舞金の配分については、各県の判断で実施(配分)する。					
	県別見舞金額 (万円)	岡山	広島	山口	愛媛	合計
		100	140	20	20	280
会費減免	(各県からの、)具体的な構成員企業単位のH30年度会費減免要請(申請)に基づき、判断。					
	年会費減免	岡山	広島	山口	愛媛	合計
	申請状況(件)	3社	4社	1社	1社	9社

* 重大(長期的な操業影響):50万円
* 中規模(数日間の操業影響):20万円

<グレード別>
* H:1、M:5、R:2、未:1

[参考]全鉄評の対応の考え方

- ・性能評価期限を迎える工場に対する特別措置(審査工期対応)
 - ①評価申請受付時の対応(通常受付期間以外での受付対応)
 - ②(評価申請をした工場に対する)速やかな工場審査及び性能評価(～大臣認定取得)実施。

以上

30全構協東北第3号

平成30年8月29日

一般社団法人全国鐵構工業協会
会 長 米森 昭夫 様

一般社団法人全国鐵構工業協会東北支部
支部長 渡 辺



『クレーン・デリック運転士免許』の試験内容等についての要望

謹啓 時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、建築鉄骨を製造する FAB 各社では、日夜安心して安全な鉄骨製品の製作に取り組んでおりますが、工場内の天井クレーンについては、近年無線操作式クレーンの導入が進んでおります。これは、従来の床上操作式のクレーンでは、操作員が荷物と一緒に移動しなければならないことに起因する転倒や下敷きなど、様々な労働災害を防止することが第一の目的であることに加えて、操作性やコスト面にも大変優れております。

しかしながら、この無線操作式クレーンの操作において、特に吊り上げ荷重 5t 以上のクレーンの操作に従事するためには、法令によって『クレーン・デリック運転士免許（旧クレーン運転士免許）』の取得が義務付けられております。

クレーン・デリック運転士免許取得のための実技試験内容は、機上操作クレーンによるものであり、FAB 工場内での実際の作業とは大きく異なっており、合格率も低い現状にあります。また、クレーン運転実技教習を修了した者については、実技試験が免除されておりますが、実技教習機関が限られるとともに日数と費用の面から各社の大きな負担となっており、これらの要因により、無線操作式クレーンの導入を断念する工場も多く見られます。

つきましては、大切な工場内作業員の安全を守り、労働災害を防止することができることに加えて、生産性の向上を図ることもできる無線操作式クレーンの導入促進を図るため、鉄構業界として FAB の工場内作業に則した実技試験・運転教習内容の新設・制度化についてのご検討をいただくよう、厚生労働省や国土交通省、クレーン関係団体等への働きかけをお願い申し上げます。

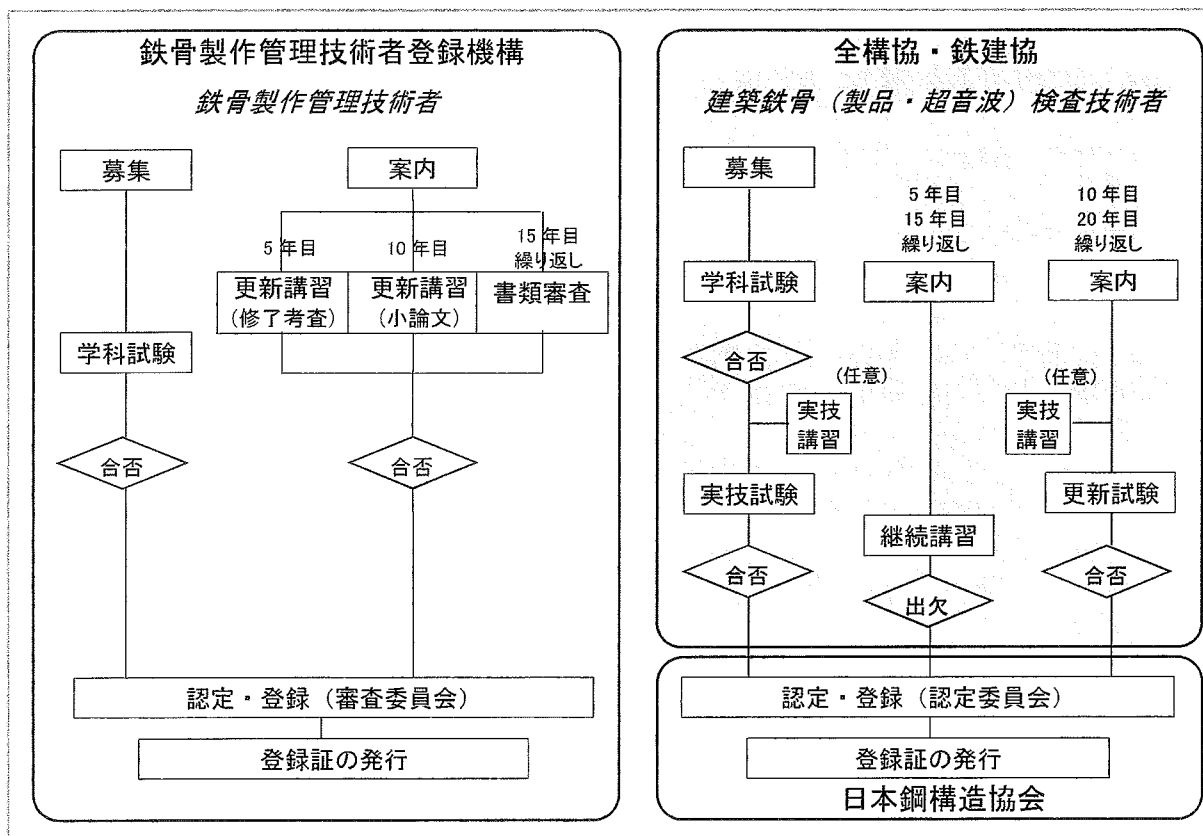
謹白

H30.9.20

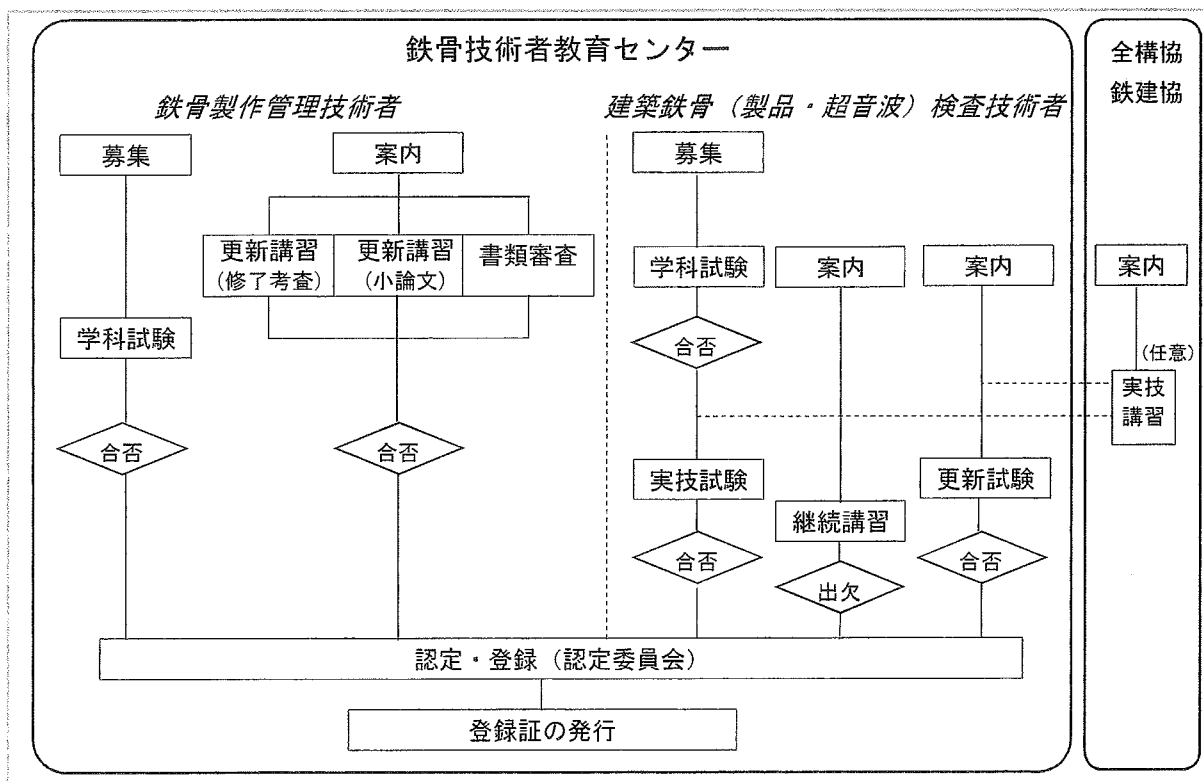
(一社) 鉄骨技術者教育センターの設立準備進捗

H31 年 4 月 1 日付けで、以下のように事業体制を変更の予定。

◎変更前



◎変更後



<平成30年度>

第2回 運営委員会 議事要旨 (案)

I. 日時：平成30年8月22日(水) 14:00~17:00

II. 場所：東京 鉄鋼会館 811号室

III. 出席者(敬称略)

(委員) 大島委員長

福谷、板垣、小池、川上、渡邊、大井、福田、谷脇、鶴田各委員

(事務局) 齊藤、大橋、猪砂、平井、佐藤

(協力会社) 大同生命：渡辺 住友生命：高本

大日本塗料：二宗

アマダマシンツール：大友

住友三井オートサービス：熊崎

オリックス：津田

(欠席：トヨタレンタリース東京)

IV. 議事要旨

1. 大島委員長挨拶

本日は、共済事業に協力をしていただいている皆さんにもご出席を頂いている。新運営委員との顔合せとなっているが、今後の共済事業の活動のために「いい関係を作る」有意義な時間にしたいと考えている。今日はよろしく願いしたい。

2. 報告事項

(1) 共済事業活動報告、共済事業会社との意見交換等

各協力会社からの活動報告に先立ち、事務局より、共済事業の概要説明及び、生命共済・塗料・鋸刃・オートリース各社の5年間の実績の推移について、資料に基づき説明した。また、協力会社から、今年度の活動方針について以下の通り、報告・説明があった。

1) 生命共済(大同生命：渡辺氏)

資料の通り、全体としては低減傾向となっている。地区別で見ると、西日本地域が伸び悩んでいる。今年の上半期は、風水害もあり、推進部の活動も足をとられている状況ではあるが、下半期は、西日本を中心に、より一層の営業強化を行いたいと考えている。

(住友生命：高本氏)

平成22年度から参加をしており、まだまだ活動が不十分であると認識している。今年度は、当社の全国にある営業網を使いながら、定期的、継続的に訪問することで、さらなるエリア拡大を目指していきたいと考えている。

2) 指定塗料(大日本塗料：二宗氏)

市況もよくなってきたが、昨年度に引き続き、今年度も30万缶突破を実現できるよう、計画を実行しているところである。また、新国立競技場のスタンド、横浜駅の再開

発等において、大日本塗料が採用されたので、皆さまへのお礼と共に、ご報告をさせていただきます。

3) 鋸刃 (アマダマシンツール：大友氏)

共済事業に参加して、10 年経過したが、少しずつ実績が伸びている。また、東高西低の傾向が出ているが、そういった偏りがないようにしていきたい。平成 30 年度も、引きつづきご支援をお願いしたい。

4) オートリース (住友三井オートサービス：熊崎氏)

法人のリース化率は、右肩上がりであるが、100 台以上の車を保有している企業については、すでに飽和状態を迎えている。しかし、100 台未満の企業は、まさにこれから移行をする時期を迎えるところであり、全構協の構成員が、このグループに該当すると認識している。引き続き支援をお願いしたい。

(オリックス：津田氏)

実績が少ないので、さらに頑張りたい。交通事故の厳罰化の傾向にあって、自動車メーカーも、安全装備を充実させる方向に向かっている。事故対策を考えている場合は、ぜひ、声掛けして欲しい。

以上の説明に対して、次の意見及び回答があった。

【共済事業会社との意見交換】

① 生命共済

- ・資料では、過去 5 年間の業績の対比をしているが、現状をどう分析するか？
⇒構成員の減少より、契約高の減少の方が大きいと思われ、それが、商品性が営業努力なのかは判断が難しい（事務局）。
- ・ベーシックな死亡保険のニーズはなくならないので、現状の保険の形態が、逆に加入し易い側面となっているのではと感じている。また、この生命共済保険においては、構成員各社が各自で、特約等を入れた保険に加入するとは考えづらい（生保会社）。
- ・各社への還付金の返却が、保険料の支払う時期と異なるため、安い価格で保険に加入できている実情が、組合等に理解されていない可能性があると思う。各支部への周知の側面からも、各運営委員に生命共済の現状を理解していただく必要があると考えている（委員長）

② 指定塗料

- ・缶数をさらに上げていくためには、代理店と構成員の相互理解が必要であると考えている。塗料の価格は、代理店によって左右されているし、大日本塗料を取り扱っていない代理店もある（中国地区）。

⇒大分県では、構成員が集まる場に、代理店を参加させ、過去の問題を話し合う等の試みを行った。代理店との問題点が発生している場合には、具体的な地区名、状

況を教えていただくようお願いしたい。(大日本塗料)

③ アマダマシンツール

営業活動をしていると言うが、認識できていない(四国地区)

⇒四国地区では、今後、さらに営業体制を厚くしていく予定である。本部として指導をしているところであるが、さらにフォローを実施していきたい。

④ オートリース

- ・すでに、地元のリース会社との契約をしている構成員を、全構協のリースへ展開していくことができると台数も出ると思うがどうか？

⇒地元のリース会社より、車を仕入れることも可能なので、ぜひ相談をして欲しい。

- ・中古車のリースも可能なのか？

⇒簿価価格で買い取り、そのままリースに移行する方法も可能である。

- ・市場調査ができていないと思う。具体的な受注、営業活動に結びつくような調査をするのも手かと思う。

- ・全構協のデータ、協力会社のデータを組みあわせて、販売戦略を作っていく方向もいいのではないか。

(2) 前回議事要旨確認について

本年6月に開催された前回の運営委員会の議事要旨について、資料No.1に基づき事務局から読み上げ、各委員が確認し了承された。

(3) 重点事業の把握と今後の予定の共有化

- ・「青年部組織代表者との意見交換会」について

資料No.2に基づき、実施内容、案内及び日程について、また、各県の代表者に依頼している「ご意見・提言、要望等 事前提出シート」の内容について、事務局より説明した。

- ・「賛助会員との交流会」について

資料No.3に基づき、実施内容、案内及び日程について、事務局より説明した。

(4) 陳情活動について

資料No.4に基づき、平成30年7月から8月に、ゼネコン・設計事務所・高炉メーカー・ゼネコン関係団体、ディベロッパーを対象に、東京と大阪で実施した旨報告が行われた。なお、陳情結果の内容については、事務局にて取りまとめた上で後日改めて報告することとした。

3. 協議事項

(1) 損害保険について

事務局より、資料No.5に基づき、8月29日に開催する三役会に提出する「共済制度における損害保険の導入計画(案)」について説明し、以下の質問が出された。

- ・同じ保険の商品を一般の契約から、全構協の契約へ切り替えた場合、保険料は上がるのか？
⇒制度維持費分がプラスとなるが、下がることはあっても上がることはない。
- ・事故の発生により、保険料の変更はあるのか？
⇒事故が発生しても、保険料の変更はない。
- ・今後の導入計画のスケジュールはどうなるか？
⇒8月29日の三役会に資料No.5を提出し、導入計画(案)を説明し、9月20日の理事会に答申をする予定である。
- ・中央会の会員に加入することで、他のメリットはないのか？
⇒以下のオプションもある。
 - ・所得補償制度、情報漏えい賠償責任保険、取引信用保険制度等

資料No.5については、各委員に、内容の再確認をしていただき、ご意見がある場合は、事務局まで連絡をいただくこととした。

(2) 企業業績実態調査について

今年度も実施予定としている企業業績調査アンケートの調査項目については、「働き方改革」関する、設問13を新たに加えることとした。また、アンケート調査協力依頼及び回答書式は、10月中に各組合へ送付を行うことで了承された。また、以下の意見が出された。

- ・回答の選択肢は、複数回答可ではなく、上位3つぐらいに絞ったほうがよい。
- ・選択肢中の「経営者の意識」は削除でいいのではないか。
- ・「働き方改革」については、2020年から中小企業も対象になることを加えた方がいいのではないか。

(3) 製品輸送について

製品輸送の現状について、各委員にヒアリングを行った。

4. その他

次回、第3回運営委員会については、次の通りとした。

平成30年11月21日(水) 14:00～ 鉄鋼会館で開催予定

平成30年9月20日

(運営委員会)

労災上乗せ保険の見直し活動(キャンペーン)について

1. 労災上乗せ保険見直し活動について(目的)

損害(労災上乗せ)保険は、ファブの事業継続上必要なものであり、多くのファブが何らかの形で加入しているものである。一方、足元の運営委員会の検討の中で、各構成員企業の保険契約においては、必ずしも必要十分で、競争力のある保険に加入出来ないケースがかなりある事が判明した。このような状況を踏まえ、運営委員会では、安価で各社のニーズに合った損害保険への切替えを促すべく、主要損害保険会社と協力し、損害(労災上乗せ)保険見直し活動(キャンペーン)を行う事を検討する。

2. 損害(労災上乗せ)保険見直し活動(キャンペーン)の概要

- 1) 損害保険の見直しについては、主要4保険会社(①損害保険ジャパン日本興亜、②三井住友火災海上保険、③東京海上日動火災保険、④あいおいニッセイ同和損害保険)が相談窓口を設定し、見直し活動を実施・展開する。

- 2) 各加入者(構成員企業)は、各損害保険会社からの提案・見積り(*<見直し>提案)を確認・検討の上、契約内容の見直しを実施する。

*1:加入者が保険内容を比較検討出来る、ツールを準備する予定。

- 3) 見直し検討に際しては、「全国中小企業団体中央会(略称:中央会)」経由の、「*業務災害補償保険」を活用する事により、安価な保険に切替える事が出来る。

*2:中央会は、非常に大きな組織であり、安価で安定した保険の提供が可能。

*3:(全構協の)構成員が、中央会経由で保険に加入する事により、全構協には手数料が入る。

3. 見直し活動(キャンペーン) 対応スケジュール (たたき台)

	9月	10月	11月	12月	1月	備考
損保見直しキャンペーン紹介(承認)	★					
キャンペーン周知・展開		←————→				
見直し手続き内容の詳細検討	←————→					
(見直し手続き開始準備)				◎	(12 末)	
見直し手続き開始					開始	————→

以上

平成 30 年〇月〇日

一般社団法人全国鐵構工業協会
運営委員会

平成 30 年度 会員企業の業績等調査アンケート

企業ご担当者へのお願い

*本調査は、(一社)全国鐵構工業協会に所属するファブリケーターの平成 29 年度の業績等を把握することを目的としております。

*本調査の回答内容は、秘密を厳守し、他の目的に使用することはいたしませんので、ありのままをご回答下さい。

*平成 29 年度の決算状況が現時点で不確定な場合(決算期が 3 月以外の場合等)は、確定している最新の決算状況でご回答下さい。

*建築鉄骨事業を対象として、設問 1~13 の該当する番号の□欄にチェックをご記入願います。

*調査票は、平成 30 年〇月〇日(一)までに、所属組合事務局宛てにご返送下さい。

*会社名を記入されない場合でも、組合名、グレードは必ず記入下さい。

問合せ先：(一社)全国鐵構工業協会事務局 佐藤

TEL 03-3667-6501

組合名			
貴社名		ご担当者名	
所在地			
グレード	S・H・M・R・J・未認定(該当グレードに○印)		

*会社名を記入されない場合でも組合名、グレードは必ず記入ください。設問 1. 平成 28 年度に比べ平成 29 年度の完成売上トン数はどうでしたか。
(鉄骨事業対象)

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| ☐ ①-30%超 | ☐ ②-25%超~-30% |
| ☐ ③-20%超~-25% | ☐ ④-15%超~-20% |
| ☐ ⑤-10%超~-15% | ☐ ⑥-5%超~-10% |
| ☐ ⑦ 0%~-5% | ☐ ⑧+0%超~+5% |
| ☐ ⑨+5%超~+10% | ☐ ⑩+10%超~+15% |
| ☐ ⑪+15%超~+20% | ☐ ⑫+20%超~+25% |
| ☐ ⑬+25%超~+30% | ☐ ⑭+30%超 |

設問 2. 平成 28 年度に比べ平成 29 年度の完成売上額はどうか。
(鉄骨事業対象)

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| ☐ ①-30%超 | ☐ ②-25%超~-30% |
| ☐ ③-20%超~-25% | ☐ ④-15%超~-20% |
| ☐ ⑤-10%超~-15% | ☐ ⑥-5%超~-10% |
| ☐ ⑦ 0%~-5% | ☐ ⑧+0%超~+5% |
| ☐ ⑨+5%超~+10% | ☐ ⑩+10%超~+15% |
| ☐ ⑪+15%超~+20% | ☐ ⑫+20%超~+25% |
| ☐ ⑬+25%超~+30% | ☐ ⑭+30%超 |

設問 3. 貴社の直近の決算状況についてお尋ねします。(鉄骨事業対象)

3-(1)決算書の損益計算書(P/L)の売上総利益(粗利益)をお答え下さい。
売上総利益(粗利益)=売上高-製造原価(材料費+労務費+外注費+製造経費)

- ☐ ①黒字 ☐ ②収支均衡 ☐ ③赤字

3-(2)決算書の損益計算書(P/L)の営業利益をお答え下さい。
営業利益=売上総利益(粗利益)-販売費及び一般管理費(企画、総務、人事、
経理等の費用)

- ☐ ①黒字 ☐ ②収支均衡 ☐ ③赤字

設問 4. 設問 3.で「③赤字」と回答された方にお尋ねします。

4-(1) 設問 3-(1)で赤字の場合、現状の鉄骨受注価格に対し採算ベース
(粗利益ベース)にはあといくら位の受注価格(トン当たり)の
上積みが必要ですか。

- | | |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| ☐ ①0.1万円~0.5万円 | ☐ ②0.5万円超~1万円 |
| ☐ ③1万円超~1.5万円 | ☐ ④1.5万円超~2万円 |
| ☐ ⑤2万円超 | |

4-(2) 設問 3-(2)で赤字の場合、現状の鉄骨受注価格に対し採算ベース
(営業利益ベース)にはあといくら位の受注価格(トン当たり)の
上積みが必要ですか。

- | | |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| ☐ ①0.1万円~0.5万円 | ☐ ②0.5万円超~1万円 |
| ☐ ③1万円超~1.5万円 | ☐ ④1.5万円超~2万円 |
| ☐ ⑤2万円超 | |

設問 5. 貴社の前年（平成 28 年度）対比の決算状況についてお尋ねします。
（鉄骨事業対象）

5-(1)前年（平成 28 年度）対比の売上総利益（粗利益）をお答え下さい。

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| ☐ ①-20%超 | ☐ ②-15%超～-20% |
| ☐ ③-10%超～-15% | ☐ ④-5%超～-10% |
| ☐ ⑤ 0%～-5% | ☐ ⑥+0%超～+5% |
| ☐ ⑦+5%超～+10% | ☐ ⑧+10%超～+15% |
| ☐ ⑨+15%超～+20% | ☐ ⑩+20%超～ |

5-(2)前年（平成 28 年度）対比の営業利益をお答え下さい。

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| ☐ ①-20%超 | ☐ ②-15%超～-20% |
| ☐ ③-10%超～-15% | ☐ ④-5%超～-10% |
| ☐ ⑤ 0%～-5% | ☐ ⑥+0%超～+5% |
| ☐ ⑦+5%超～+10% | ☐ ⑧+10%超～+15% |
| ☐ ⑨+15%超～+20% | ☐ ⑩+20%超～ |

設問 6. 貴社の経営上、現在課題となっていることは何ですか。（複数回答可）

- | | |
|--|------------------------------------|
| ☐ ①受注量が少ない | ☐ ②受注単価が低い |
| ☐ ③客先の与信問題 | ☐ ④鋼材他価格の上昇 |
| ☐ ⑤鋼材の入手難 | ☐ ⑥資金繰り難 |
| ☐ ⑦従業員の採用難 | ☐ ⑧従業員の人材難 |
| ☐ ⑨追加変更代金の回収難 | ☐ ⑩図面決定の遅延 |
| ☐ ⑪その他（下枠内に具体的に記入して下さい） | |

【以下現場工事の法定福利費関係についての設問です】

平成30年9月末時点での状況で、下記設問にお答えください。

設問7. 法定福利費の見積状況についてお答えください。

- ☐ ①全物件に見積計上している。
- ☐ ②(物件により)一部見積計上している。
- ☐ ③全物件で見積計上はしていない。

設問8. 設問7で①または②と回答された方は、下記設問にお答えください。

「見積計上をした物件」は、

- ☐ ①法定福利費を含んで契約した。
(法定福利費を全体金額に含んだ形での成約含む)
- ☐ ②法定福利費は認められず(含まず)に契約した。

設問9. 設問8を回答した方に伺います。

契約された工事について、二次以下の現場下請企業への法定福利費の対応についてお答えください。

- ☐ ①法定福利費(項目)についての発注者との契約があった場合は
当該成約工事分として下請契約企業に払う(払っている)。
- ☐ ②法定福利費(項目)についての発注者との契約がない場合でも
当該成約工事分として下請契約企業に払う(払っている)。
- ☐ ③法定福利費(項目)についての発注者との契約がない場合は
当該成約工事分として下請契約企業に払わない。

【以下「働き方改革」についての設問です】

各社の労働実態と「働き方改革」に対する対応についてお伺いします。

(※今年7月～9月期間の概算の数字をお答え下さい。)

設問 10. 従業員の月あたりの平均残業時間は、概ね何時間ですか。

- ☐ ①20 時間未満
- ☐ ②20 時間以上～45 時間未満
- ☐ ③45 時間以上

設問 11. 特に残業が多い従業員の月間の残業時間は、下記のどれですか。

- ☐ ①60 時間以上残業している社員はいない。
- ☐ ②60 時間以上残業している社員がいる。
- ☐ ③80 時間以上残業している社員がいる。

設問 12. 従業員の平均休日取得日数（実態）は、下記のどれですか。

- ☐ ①月間 4 日未満である。
- ☐ ②月間 4 日である。
- ☐ ③月間 5 日である。
- ☐ ④月間 6 日である。
- ☐ ⑤月間 7 日である。
- ☐ ⑥月間 8 日以上である。

----- 以下、今回の新規設問（検討案） -----

設問13. 働き方改革を進める上で優先度が高い項目は、下記のどれですか。

- ☐ ①商慣行の改善、発注者の理解
- ☐ ②社内（経営者、社員）の意識改革
- ☐ ③生産性の向上（業務工程、事務の効率化）
- ☐ ④職員の能力向上・人材の確保
- ☐ ⑤行政の支援

設問14. (女性活用関連)貴社で雇用している女性従業員数は、下記のどれですか。

- ☐ ①女性従業員はいない（0名）
- ☐ ②1～5名
- ☐ ③6～10名
- ☐ ④11～20名
- ☐ ⑤21名以上

設問15. 女性従業員の業務内容についてお聞きます。（複数回答可）

- ☐ ①全て一般事務
- ☐ ②営業関係の女性従業員がいる。
- ☐ ③設計、図面、積算担当の女性従業員がいる。
- ☐ ④製造管理、検査関係の女性従業員がいる。
- ☐ ⑤工場・現場の作業員として、女性従業員がいる。

以 上

平成 30 年 9 月 20 日

平成 31 年度 (2019 年度)

鉄骨技術研究開発助成制度 募集案内 (会員応募型)

一般社団法人全国鐵構工業協会

全構協では、鉄骨技術の研究開発の活性化を図り、技術力の向上による良質な建築鉄骨を提供することにより社会に貢献するべく、平成 29 年度から「鉄骨技術研究開発助成制度」の運用を開始しております。

つきましては、以下の要領をご案内いたしますので、研究開発の一助とされるべく奮ってご応募下さい。

要 領

1. 助成目的

鉄骨技術の研究開発に要する費用を助成することで、構成員各社の研究開発意欲を活性化させるとともに、技術力向上と鉄骨業界の健全な発展を図ることを目的とします。

2. 助成対象

鉄骨製作の「品質」「生産性」「作業性」などの向上が期待でき、且つ、鉄骨業界にとって有益となり得る研究開発とします。

※現場施工、安全、労務管理、事務効率化に関する研究開発は対象外とします。

3. 応募資格

全構協構成員または正会員（各県組合）とします。

共同研究者がいる場合は、共同研究者と請負契約をしていただきます。

4. 応募期間

平成 30 年 (2018 年) 12 月 3 日 (月) ～1 月 31 日 (木) 全構協事務局必着
(県組合経由)

5. 応募方法

所定の様式（電子データ）を県組合事務局から入手し、必要事項を入力の上、電子データで県組合に提出してください。

(全構協会員専用ホームページをご参照ください。)

6. 選考

選考委員会の選考に基づき、理事会で決定します。(2月予定)

※採択件数は、3件程度

選考結果は、県組合を経由して応募者に通知いたします。

7. 応募から選考までの流れ

別添『「鉄骨技術研究開発助成制度」の申請フロー(会員応募型)』の通り。

8. 研究開発期間

平成31年4月～平成32年3月までの1年間

研究開始前に全構協と請負契約を締結していただきます。

9. 助成金額及び支払

- 1) 1テーマ(1年以内の計画)あたり、最大300万円かつ自己負担額以下。
- 2) 請負契約締結時に助成額の半額を、研究成果の報告後に残額を支払います。

10. 研究成果

- 1) 研究成果及び会計は、研究開発期間終了後3ヶ月以内に、全構協に報告していただきます。
- 2) 研究成果は、所管の学協会に発表(または論文投稿)していただきます。
- 3) 全構協は、適宜、研究成果を公開いたします。

11. 権利

- 1) 知的財産権(特許含む)は申請者に帰属しますが、その成果物は、全構協構成員が使用できるものとします。
- 2) 特許申請する場合は、全構協の承認を得る必要があります。
- 3) 成果物に関する報告書の著作権は全構協に帰属します。

12. 問合せ

一般社団法人全国鐵構工業協会 技術部

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町21-7 兜町ユニ・スクエア

電話: 03-3667-6501 FAX: 03-3667-6960

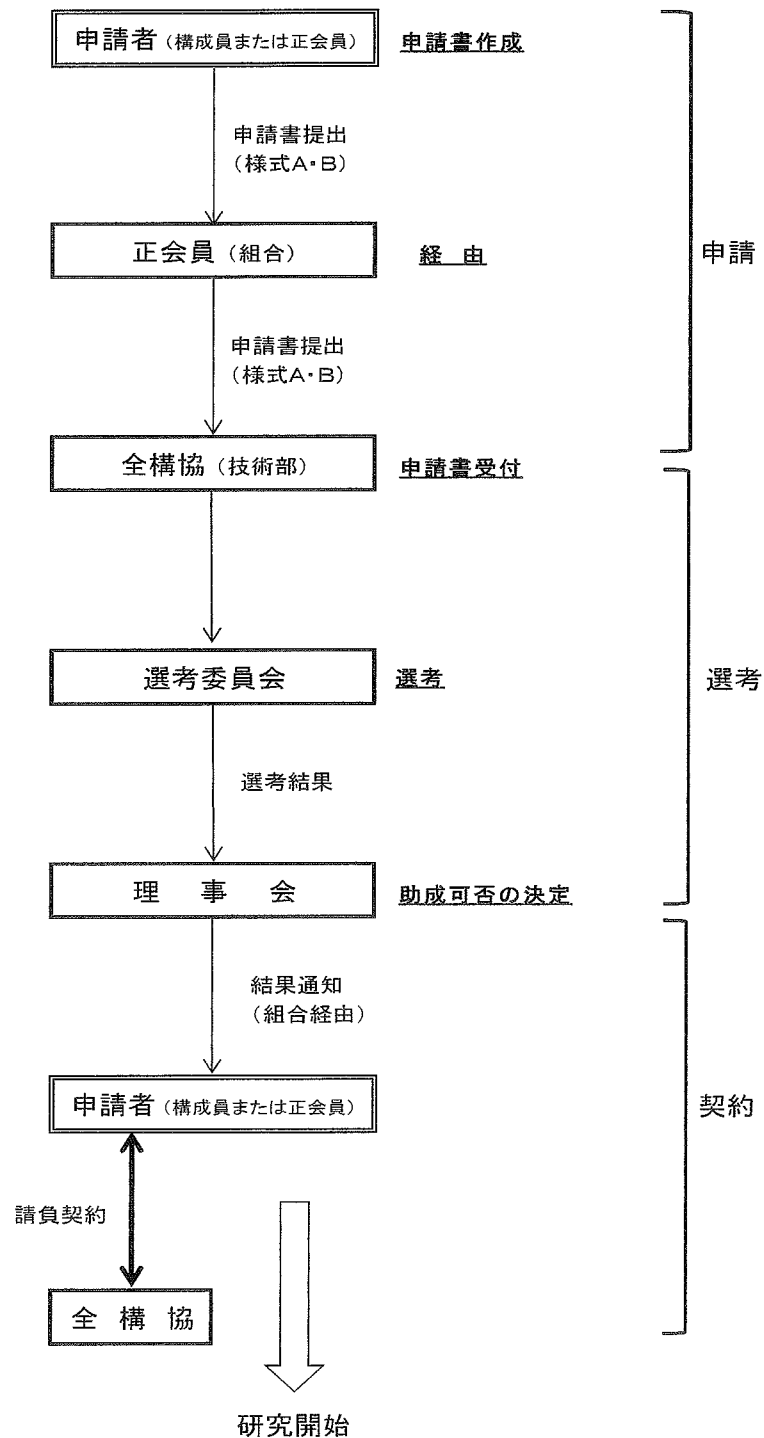
※ 個人情報の取扱について

申請書等によって提供された個人情報は、本事業に関する業務以外には使用いたしません。

以上

別添

「鉄骨技術研究開発助成制度」の申請フロー(会員応募型)



2018.9.20

鉄骨技術研究開発助成制度(会員応募型) 選考実績

平成29年度 研究期間:平成29年8月～平成30年7月

	会 社 名	所 属	テ ー マ
1	藤木鉄工株式会社	新潟県鉄骨工業組合	鋼構造建築物における溶融亜鉛めっき割れに関する研究
2	一般社団法人山梨県鉄構溶接協会	一般社団法人山梨県鉄構溶接協会	30度開先の実用化に向けた炭酸ガスアーク溶接における機械的 性能に及ぼす影響

平成30年度 研究期間:平成30年4月～平成31年3月

	会 社 名	所 属	テ ー マ
1	協同組合 広島県鉄構工業会	協同組合 広島県鉄構工業会	溶融亜鉛めっき高力ボルトの過大孔

第5回「建築構造用鋼材と利用技術セミナー」開催案内

主 催 一般社団法人日本鉄鋼連盟

開催目的 一般社団法人日本鉄鋼連盟は健全なる鉄骨造建築の普及を目的とした諸活動を行っております。そのひとつとして平成7年度から毎年「建築構造用鋼材とその利用技術」講習会を開催してまいりましたが、平成26年度より受講料無料のセミナーとして再スタートいたしました。第5回となる今回は、全国7地区にて、建築構造用鋼材の利用技術、新工法等に関する以下のテーマについて、実務的・実践的に解説いたします。ぜひ多くの皆様のご参加をお待ちしております。

- ・基調講演
- ・鉄骨製作技術課題への取り組み
- ・冷間成形角形鋼管の溶接・加工品質向上と施工合理化について
- ・建研・国総研における鉄骨造建築物に関する最近の研究

受講対象 官公庁、建築設計事務所、建設業、鉄骨加工業、大学・高専教員・学生、学術関連機関等、建築関係者

受講料 無料

配付資料 各講義におけるパワーポイント資料他

申込方法 (1) インターネットによるお申し込み

- ・下記日本鉄鋼連盟ホームページへアクセスし、「開催地・開催日・会場・申込」をクリック、以降は画面の案内に従ってお申し込み下さい。

日本鉄鋼連盟ホームページ>各種ご案内>催し物のご案内>「建築構造用鋼材と利用技術セミナー」

<http://www.jisf.or.jp/info/event/kenchiku/index.html>

- ・お申し込みいただいた各受講者のメールアドレス宛、電子メールにて、受講証を送信しますので、ご確認下さい。
- ・受講証を印刷のうえ、当日会場に必ずご持参下さい。

(2) FAXによるお申し込み

- ・インターネットによるお申し込みが難しい場合、4ページの受講申込書に必要事項を記入の上、記載の送信先へFAXにてご送信下さい。
- ・お申し込みいただいた各受講者宛、受講証をFAX送信(メールアドレスを記入いただいた方には電子メール送信)しますので、ご確認下さい。
- ・受講証を当日会場に必ずご持参下さい。

申込締切り期日 開催日の3日前。それ以降にお申し込みの場合は、確認のため電話にて2ページの「お問合せ先」宛ご連絡の上お申し込み下さい。ただし、締切り期日前でも定員に達した場合締切らせていただきます。

後 援 (予 定) 国土交通省、国立研究開発法人建築研究所、一般財団法人日本建築センター、一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本建築士会連合会、一般社団法人日本建築士事務所協会連合会、公益社団法人日本建築家協会、一般社団法人日本建築構造技術者協会、一般社団法人全国建設業協会、一般社団法人日本建設業連合会、一般社団法人鉄骨建設業協会、一般社団法人全国鉄構工業協会、一般社団法人日本鋼構造協会、一般社団法人日本溶接協会

[札幌会場] 北海道、一般社団法人北海道建築士会、一般社団法人北海道建築士事務所協会、一般社団法人北海道建設業協会、一般社団法人北海道機械工業会鉄骨部会

[仙台会場] 宮城県、東北鉄構工業連合会、一般社団法人宮城県建築士会、一般社団法人宮城県建築士事務所協会、一般社団法人宮城県建設業協会、宮城県鉄構工業協同組合

[東京会場] 東京都、一般社団法人東京建築士会、一般社団法人東京都建築士事務所協会、一般社団法人東京建設業協会、東京鉄構工業協同組合

[名古屋会場] 愛知県、公益社団法人愛知建築士会、公益社団法人愛知県建築士事務所協会、一般社団法人愛知県建設業協会、愛知県鉄構工業協同組合

[大阪会場] 大阪府、公益社団法人大阪府建築士会、一般社団法人大阪府建築士事務所協会、一般社団法人大阪建設業協会、大阪府鉄構建設業協同組合

[広島会場] 広島県、公益社団法人広島県建築士会、一般社団法人広島県建築士事務所協会、一般社団法人広島県建設工業協会、協同組合広島県鉄構工業会

[福岡会場] 福岡県、公益社団法人福岡県建築士会、一般社団法人福岡県建築士事務所協会、一般社団法人福岡県建設業協会、工業組合福岡県鉄構工業会

第5回「建築構造用鋼材と利用技術セミナー」プログラム(予定)

開催地区	開催日	広島	東京	名古屋	札幌	仙台	大阪	福岡
		平成30年10月26日(金)	平成30年10月30日(火)	平成30年11月8日(木)	平成30年11月22日(木)	平成30年11月30日(金)	平成30年12月6日(木)	平成30年12月14日(金)
会場	開 催 日	メルパルク広島 平成 (6階)	東京証券会館 ホール (8階)	愛知県産業労働センター (ウイングあいち) 大会議室 1001	札幌グランドホテル 紅葉 (第3階)	仙台国際ホテル 広瀬 (4階)	大阪大学中之島キャンパス 佐治政三ホール (10階)	アクロス福岡 大会議室 (7階)
	会 場	広島県広島市中区 基町6-36 TEL: (082) 222-9867	東京都中央区日本橋茅 場町 1-5-8 TEL: (03) 3667-9210	名古屋市中村区名駅 4-4-38 TEL: (052) 571-6131	札幌市中央区北1西4 TEL: (011) 261-3311	宮城県仙台市青葉区 中央4-6-1 TEL: (022) 268-1111	大阪府北区中之島 4-3-53 TEL: (06) 6444-2100	福岡市中央区 天神1-1-1 TEL: (092) 725-9113
	定 員	96名	200名	100名	72名	96名	144名	120名
時間	プログラム	13:30~13:40	13:40~14:30	14:30~15:10	15:10~15:20	15:20~16:00	16:00~16:45	休 憩
プログラム	冷間成形角形鋼管の溶接・加工品質向上と施工合理化について	広島大学大学院 工学研究科 建築学専攻 教授 田 川 浩	東京工業大学 科学技術創成研究院 未来産業技術研究所 教授 山 田 哲	名古屋工業大学大学院 しくみ領域社会工学専攻 建築デザイン工学科 教授 井 戸 秀 樹	北海道大学大学院 建築都市空間デザイン 部門 教授 岡 崎 太 一 郎	東北大学大学院 工学研究科 都市・建築学 教授 植 松 康	神戸大学大学院 工学研究科 建築学専攻 教授 田 中 剛	福岡大学 工学部 建築学科 教授 堺 純 一
プログラム	建研・国総研における鉄骨造建築物に関する最近の研究	ホッパコム委員会 幹事 (新日鐵住金) 建材開発技術部 建築 建材技術室 上席主幹 澤 泉 伸 一	ホッパコム委員会委員長 (日鐵住金建材) 顧問 園 田 正 雄	ホッパコム委員会 幹事 (丸一鋼管) 東京工場長 栗 根 良 昭	ホッパコム委員会 幹事 (JFEスチール) 建材開発技術部 建築 技術室 部長 安 田 孝 平	ホッパコム委員会 幹事 (脚セイケイ) 常務執行役員 松 田 雅	ホッパコム委員会 幹事 (日鐵住金建材) 建築技術部 商品技術室長 中 川 治 彦	ホッパコム委員会委員長 (日鐵住金建材) 顧問 園 田 正 雄
プログラム	建研・国総研における鉄骨造建築物に関する最近の研究	国立研究開発法人 建築研究所 建築生産研究グループ 研究員 沖 佑 典	国立研究開発法人 建築研究所 構造研究グループ 上席研究員 長 谷 川 隆	国立研究開発法人 建築研究所 建築生産研究グループ 研究員 沖 佑 典	国土交通省 国土技術政策総合研究所 建築研究所 評価システム研究室 室長 石 原 直	国立研究開発法人 建築研究所 構造研究グループ 主任研究員 岩 田 善 裕	国立研究開発法人 建築研究所 構造研究グループ 上席研究員 長 谷 川 隆	国土交通省 国土技術政策総合研究所 建築研究所 構造基礎研究室 研究員 三 木 徳 人

*講師・講演内容は変更になる場合があります

30 普 電 工 発 第 70 号
平成 30 年 9 月 10 日

各 位

普通鋼電炉工業会

「2018年 電炉鋼材フォーラム」開催のご案内

東京会場

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

普通鋼電炉会社は、鉄スクラップを電気炉により溶解・圧延し、鉄筋、形鋼、平鋼、厚板等の電炉鋼材を生産しております。電炉鋼材は建設分野を中心に幅広く使用されており、また今日、環境・資源循環等の観点からも鉄のリサイクルによって生まれる電炉鋼材への関心は日々高まっております。

当工業会では、毎年「電炉鋼材フォーラム」を開催し、官公庁・自治体・建設会社・設計会社・鉄骨加工・鉄筋加工・流通・教育研究関係をはじめとするユーザーの方々をお招きし、電炉鋼材の生産技術、鋼材使用の動向、電炉業をめぐる動きについての情報発信の場となるよう企画しております。当会場は、下記のとおり開催いたしますので、関係の方々のご出席をいただきますようご案内申し上げます。

敬具

記

1.日 時：平成30年11月5日（月） 午後1時～4時30分

2.場 所：東京国際フォーラム 7階ホールB7

東京都千代田区丸の内3-5-1 TEL 03-5221-9000

アクセス <https://www.t-i-forum.co.jp/general/access/>

3.内 容：「2018年電炉鋼材フォーラム プログラム」をご覧ください。

*参加費無料です。 当日、関連資料を配布いたします。

4.パンフレット展示コーナー：東京国際フォーラム 会場内に開設します。

*会員会社の製品パンフレットを入手・持ち帰りができます。

5.申込方法：FAX：別添「参加申込用紙」にご記入の上ご送信ください。

当工業会ホームページ <http://www.fudenkou.jp>からも申込みができます。

6.申込み期限：東京会場 平成30年10月22日（月）

*なお、会場定員に達した場合は締め切とさせていただきます。

申し込まれた方の確認は、当日会場受付でさせていただきます。

事前に入場証等はお送りいたしません。

7.申込・問合せ先： 普通鋼電炉工業会 TEL 03-5640-1122 FAX 03-5640-1125

(〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10 鉄鋼会館3階)

*個人情報の取扱については本フォーラム以外の目的には使用いたしません。

以上

2018年電炉鋼材フォーラム

主催 普通鋼電炉工業会

《プログラム》

1. 開催日時場所

開催日	場所	開催時間	参加費
平成30年10月15日(月)	仙台	仙台国際ホテル 平成(2階) (定員 80名)	宮城県仙台市青葉区中央 4-6-1 Tel.022-268-1111
平成30年10月22日(月)	札幌	札幌グランドホテル GINSEN(3階) (定員 80名)	北海道札幌市中央区北1西4 Tel.011-261-3311
平成30年11月5日(月)	東京	東京国際フォーラム ホールB7(7階) (定員 500名)	東京都千代田区丸の内 3-5-1 Tel.03-5221-9050
平成30年11月15日(木)	名古屋	名古屋国際ホテル 老松(2階) (定員 200名)	愛知県名古屋市中区錦 3-23-3 Tel.052-961-3111
平成30年11月22日(木)	福岡	西鉄グランドホテル プレジール(2階) (定員 80名)	福岡県福岡市中央区大名 2-16-60 Tel.092-771-7171
平成30年11月30日(金)	大阪	マイドームおおさか Fホール(3階) (定員 350名)	大阪府大阪市中央区本町橋 2-5 当日Tel.06-6947-4306

2. 会場プログラム

・以下プログラム内容は各会場共通 各社パンフレット展示 *普通鋼電炉工業会 TEL.03-5640-1122 FAX 03-5640-1125 <普通鋼 ホームページ <http://www.fudenken.jp>

13:00-13:10	開会挨拶 仙台会場: ㈱伊藤製鐵所 社長 伊藤 壽健 札幌会場: 清水鋼鐵㈱ 社長 清水 孝 東京会場: 合同製鐵㈱ 常務執行役員 山崎 晃生 名古屋会場: トピー工業㈱ 執行役員スチール事業部長 中村 毅 福岡会場: ㈱トカイ 社長 足立 仁 大阪会場: 中山鋼業㈱ 社長 井手迫 利文
13:10-13:40 発表25分+質問時間5分	最近の電炉鋼材の概況 —電炉業の動画紹介「バーチャル工場見学」— 普通鋼電炉工業会 品質管理委員会 電炉業はリターンスクラップを活用するリサイクル産業です。電炉の製造現場の様子をビデオ上映することで、工場見学を疑似体験していただきます。
13:40-14:10 発表25分+質問時間5分	講演 「鉄鋼に関連する最近の行政施策について」 (仮題) 経済産業省 製造産業局 金属課ご担当者 殿 国内における下請け取引適正化への取り組み、米国による鉄鋼等輸入制限措置の動向、自由貿易を堅持する立場から G20、鉄鋼グローバル・プラットフォーム等での活動等を解説します。
14:10-14:45 発表30分+質問時間5分	講演 札幌・仙台・東京 「台湾経済の現状と進出日系企業動向」 (独法) 日本貿易振興機構 海外調査部 主査 加藤 康二 殿 名古屋・福岡・大阪 「韓国経済の現状と進出日系企業動向」 (独法) 日本貿易振興機構 海外調査部 主査 百本 和弘 殿 近隣アジアは地政学上重要な地域であり、台湾と韓国における産業構造の強みや弱みを分析するとともに、政治経済動向や日系企業の声などを基に解説します。
14:45-15:00 休憩	
15:00-15:35 発表30分+質問時間5分	講演 「2018年の中国と今後」 ㈱鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一 殿 2018年中国の粗鋼生産は過去最高だった17年をさらに超え、8億8000万t前後となると見込まれます。世界の約50%を占める「巨大な鉄鋼生産国」であり無視できません。現状を明らかにしながら今後をさぐります。
15:35-16:30 発表50分+質問時間5分	報告 「電炉鉄筋棒鋼品質調査報告」 普通鋼電炉工業会 電炉鉄筋棒鋼品質調査委員会 (委員長 千葉工業大学 創造工学部建築学科 教授 中野 克彦 殿) 当工業会では電炉鉄筋棒鋼品質調査委員会にて、昭和62年から過去8回にわたり品質調査を実施し、その成果を当フォーラムで公開してきました。今回第9回目の発表になります。

そ の 他 の 事 項

構成員登録・取消社数累計表

登録・取消承認日	全構協受付締切日	登録社数	取消社数	合計社数
平成30年3月31日現在 (平成29年度増減数)		56	27	2,201
平成30年5月22日 第1回理事会	3月31日	(0)	(7)	2,201
平成30年6月8日 第2回理事会	6月1日	13	3	2,211
平成30年6月8日 第3回理事会	—	—	—	—
平成30年7月12日 第4回理事会	7月5日	4	3	2,212
平成30年9月20日 第5回理事会	9月13日	4	6	2,210
累 計		21	12	2,210

《グレード別内訳》

S : 5 H : 247 M : 827 R : 606 J : 52 未 : 473 合計 : 2,210

登録構成員増減及び取消理由別社数一覧表

平成30年9月13日現在

区分	登録・取消 承認	増 減									増減差	増 減 後 構 成 員 数
		登録 社数	取消社数									
			倒 産	転・廃業	縮 小	工場閉鎖	休 業	そ の 他	合 計			
平成10年度合計		67	21	48	26	11	11	94	211	-144	3,959	
平成11年度合計		46	63	76	32	18	4	86	279	-233	3,726	
平成12年度合計		22	48	52	31	11	5	83	230	-208	3,518	
平成13年度合計		22	48	59	37	10	8	117	279	-257	3,261	
平成14年度合計		40	67	37	45	21	4	110	284	-244	3,017	
平成15年度合計		33	38	28	38	4	9	84	201	-168	2,849	
平成16年度合計		65	13	22	18	2	1	45	101	-36	2,813	
平成17年度合計		35	15	16	14	2	3	28	78	-43	2,770	
平成18年度合計		49	8	15	19	6	3	29	80	-31	2,739	
平成19年度合計		51	13	19	20	6	1	20	79	-28	2,711	
平成20年度合計		49	17	17	29	0	4	41	108	-59	2,652	
平成21年度合計		37	11	47	34	3	6	50	151	-114	2,538	
平成22年度合計		23	31	39	33	4	7	52	166	-143	2,395	
平成23年度合計		14	13	45	20	3	3	65	149	-135	2,260	
平成24年度合計		20	9	15	19	2	0	35	80	-60	2,200	
平成25年度合計		13	5	5	13	2	2	15	42	-29	2,171	
平成26年度合計		26	2	6	10	0	0	21	39	-13	2,158	
平成27年度合計		36	0	5	9	0	0	11	25	11	2,169	
平成28年度合計		36	1	6	9	1	0	16	33	3	2,172	
平成29年度合計		56	0	9	7	0	0	11	27	29	2,201	
平成 30 年 度	第 2 回 (6月1日)	13	1	0	0	0	0	2	3	10	2,211	
	第 3 回 (ー)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	第 4 回 (7月5日)	4	1	0	0	0	0	2	3	1	2,212	
	第 5 回 (9月13日)	4	0	2	1	0	1	2	6	-2	2,210	
	第 6 回 (月 日)											
	第 7 回 (月 日)											
	第 8 回 (月 日)											
	第 9 回 (月 日)											
	年度末処理											
	30年度計		21	2	2	1	0	1	6	12	9	2,210
累 計		966	499	648	510	124	79	1,117	2,977	-2,011	2,210	

1. 転・廃業内訳	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	転業 1社	転業 3社	転業 0社	転業 0社	転業 0社
	廃業 5社	廃業 2社	廃業 6社	廃業 9社	廃業 2社

2. グレード別取消内訳	S	H	M	R	J	未	合計
平成26年度	0	2	6	8	0	23	39
平成27年度	1	1	3	6	0	14	25
平成28年度	0	2	1	8	0	22	33
平成29年度	0	1	4	4	1	17	27
平成30年度	0	1	1	4	0	6	12

構成員登録社数・増減一覧表

(30. 7. 6~30. 9. 13)

支部名	都道府県名	前回	増	減	差	今回
北海道	北海道	73			0	73
東北	青森	39			0	39
	岩手	31		1	-1	30
	宮城	41			0	41
	秋田	23			0	23
	山形	25			0	25
関東	福島	63		1	-1	62
	茨城	61			0	61
	栃木	50	1		1	51
	群馬	65			0	65
	埼玉	53			0	53
	千葉	56			0	56
	東京	48			0	48
	神奈川	38			0	38
	新潟	91			0	91
	山梨	31			0	31
北陸	長野	66			0	66
	富山	39			0	39
	石川	32			0	32
	福井	38			0	38
中部	岐阜	71			0	71
	静岡	95			0	95
	愛知	145		2	-2	143
	三重	63			0	63

支部名	都道府県名	前回	増	減	差	今回
近畿	滋賀	32			0	32
	京都	50		1	-1	49
	大阪	115	1		1	116
	兵庫	74			0	74
	奈良	39			0	39
中国	和歌山	38			0	38
	鳥取	14			0	14
	島根	24			0	24
	岡山	35			0	35
	広島	73	2	1	1	74
四国	山口	41			0	41
	徳島	26			0	26
	香川	47			0	47
	愛媛	40			0	40
	高知	22			0	22
九州	福岡	52			0	52
	佐賀	24			0	24
	長崎	19			0	19
	熊本	23			0	23
	大分	20			0	20
	宮崎	23			0	23
	鹿児島	31			0	31
合 計		2,212	4	6	-2	2,210

(4 社)

[illegible]

構成員登録取消企業一覧表

平成30年9月13日現在
平成30年9月20日決定

(9 社)

[illegible]

建築着工面積と鉄骨推定所要量推移

(国土交通省建築着工統計速報による)

平成30年9月4日作成

年度	月	全建築物		鉄骨造		鉄骨鉄筋造		鉄骨推定重量計	
		面積	前年同期比	面積	前年同期比	面積	前年同期比	トン数	前年同期比
平成10年度計		193,353	87.7	69,856	84.2	15,778	80.6	7,774,450	83.8
平成11年度計		197,017	101.9	68,108	97.5	17,361	110.0	7,678,750	98.8
平成12年度計		194,481	98.7	70,808	104.0	15,305	88.2	7,846,050	102.2
平成13年度計		178,903	91.9	63,529	89.7	13,056	85.3	7,006,500	89.2
平成14年度計		171,031	95.6	61,468	96.8	10,958	83.9	6,694,700	95.5
平成15年度計		176,531	103.2	64,378	104.7	9,402	85.8	6,907,900	103.2
平成16年度計		182,774	103.5	69,927	108.6	6,834	72.7	7,334,400	106.2
平成17年度計		185,648	101.6	69,338	99.2	5,468	80.0	7,207,200	98.3
平成18年度計		187,611	101.1	70,187	101.2	6,317	115.5	7,334,550	101.8
平成19年度計		157,219	83.8	61,466	87.6	5,443	86.2	6,418,750	87.5
平成20年度計		151,394	96.3	56,639	92.1	4,604	84.6	5,894,100	91.8
平成21年度計		113,196	74.8	37,589	66.4	2,937	63.8	3,905,750	66.3
平成22年度計		122,281	108.0	40,478	107.7	2,731	93.0	4,184,350	107.1
平成23年度計		127,294	104.1	41,792	103.2	2,610	95.6	4,309,700	103.0
平成24年度計		135,452	106.4	46,257	110.7	2,677	102.6	4,759,550	110.4
平成25年度計		148,461	109.6	52,350	113.2	3,466	129.5	5,408,300	113.6
平成26年度計		130,791	88.1	48,554	92.7	3,019	87.1	5,006,350	92.6
平成27年度計		129,605	99.1	48,304	99.5	2,909	96.4	4,975,850	99.4
平成28年度計		134,236	103.6	49,957	103.4	2,171	74.6	5,104,250	102.6
平成29年度	4月	11,874	109.5	4,352	122.3	194	93.3	444,900	121.5
	5月	11,219	93.4	4,356	93.2	176	44.3	444,400	91.2
	6月	12,357	102.6	4,795	105.2	188	98.4	488,900	105.1
	7月	11,571	104.5	4,341	111.0	216	248.3	444,900	112.5
	8月	11,473	96.6	4,595	92.8	196	408.3	469,300	94.3
	9月	11,651	99.0	4,409	100.2	176	97.8	449,700	100.2
	10月	11,600	101.9	4,103	102.1	246	215.8	422,600	103.7
	11月	11,591	102.3	4,527	109.0	258	396.9	465,600	111.2
	12月	10,151	94.6	3,652	89.6	127	73.0	371,550	89.3
	1月	9,468	85.5	3,960	92.8	118	92.2	401,900	92.8
	2月	10,083	97.5	3,695	92.4	681	144.9	403,550	95.3
	3月	9,990	102.1	3,916	115.4	212	194.5	402,200	116.7
	年度計	133,028	99.1	50,701	101.5	2,788	128.4	5,209,500	102.1
平成30年度	4月	11,733	98.8	4,323	99.3	133	68.6	438,950	98.7
	5月	10,912	97.3	4,275	98.1	164	93.2	435,700	98.0
	6月	11,350	91.9	4,712	98.3	36	19.1	473,000	96.7
	7月	11,869	102.6	4,724	108.8	260	120.4	485,400	109.1
	8月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	9月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	10月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	11月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	12月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	1月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	2月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	3月		0.0		0.0		0.0	0	0.0
	年度計	45,864	97.5	18,034	101.1	593	76.6	1,833,050	100.5

(単位) 面積 1,000m²
前年同期比 %(注) 鉄骨推定所要量
鉄骨造 m² × 100kg
鉄骨鉄筋造 m² × 50kg

平成30年度主要会議日程表

H30.7.20 現在

日 月 火 水 木 金 土							日 月 火 水 木 金 土																								
4	1	2	3	4	5	6	7	7	1	2	3	4	5	6	7	10	1	2	3	4	5	6	1	6	7	8	9	10	11	12	
	8	9	10	11	12	13	14		8	9	10	11	12	13	14		7	8	9	10	11	12		13	14	15	16	17	18	19	20
	15	16	17	18	19	20	21		15	16	17	18	19	20	21		14	15	16	17	18	19		20	21	22	23	24	25	26	
	22	23	24	25	26	27	28		22	23	24	25	26	27	28		21	22	23	24	25	26		27	28	29	30	31			
	29	30							29	30	31							28	29	30	31										
5	6	7	8	9	10	11	12	8	5	6	7	8	9	10	11	11	4	5	6	7	8	9	2	3	4	5	6	7	8	9	
	13	14	15	16	17	18	19		12	13	14	15	16	17	11		12	13	14	15	16	17		10	11	12	13	14	15	16	
	20	21	22	23	24	25	26		19	20	21	22	23	24	25		18	19	20	21	22	23		24	17	18	19	20	21	22	23
	27	28	29	30	31				26	27	28	29	30	31	25		26	27	28	29	30	24		25	26	27	28				
6								9	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	3	3	4	5	6	7	8	9	
	3	4	5	6	7	8	9		9	10	11	12	13	14	15		2	3	4	5	6	7		8	10	11	12	13	14	15	16
	10	11	12	13	14	15	16		16	17	18	19	20	21	22		15	16	17	18	19	20		21	17	18	19	20	21	22	23
	17	18	19	20	21	22	23		23	24	25	26	27	28	29		23	24	25	26	27	28		29	24	25	26	27	28	29	30
	24	25	26	27	28	29	30			30	31							30	31							31					

□ 1 2 3 4 5
 ↓ 土・日・祝日
 □ 6 7 8 9 10 11 12
 ↓ 夏期・年末年始休日
 □ 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
 ↓ 振替休日
 □ 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
 ↓ 休日出勤

開催年月日	時間	三役会	理事会	総会	全国理番基金 事務局長会議	委員会	その他	備考
平成 30 年								
4 月 4 日 水	11:00 ~ 17:00	11:00						
4 月 6 日 金	15:00 ~ 19:00				15:00 ※			※事務局長会議(金沢)
5 月 9 日 水	14:00 ~ 17:00	14:00						
5 月 22 日 火	10:30 ~ 17:00	10:30	14:00 ※					※総会招集決議
6 月 8 日 金	10:00 ~ 18:30	10:00	11:30	15:00				14:00 全統評株主総会
6 月 15 日 金	14:00 ~ 17:00				14:00 運営技術			
7 月 4 日 水	12:00 ~ 19:30	12:00						16:00 三役・青年部会長等懇談
7 月 12 日 木	10:30 ~ 17:00	10:30	14:00					17:00 懇親会
7 月 13 日 金	9:30 ~ 12:00					9:30 特別		新理事会初回
8 月 29 日 水	14:00 ~ 17:00	14:00						
8 月 30 日 木	11:30 ~ 15:00							11:30 幹事審議会
9 月 11 日 火	14:00 ~ 17:00	14:00						
9 月 20 日 木	10:00 ~ 17:00	10:00	12:00			9:30 特別		15:00 賛助会員懇談会
9 月 21 日 金	9:30 ~ 12:00							13:00 青年部会各県会長等委員交換会
10 月 10 日 水	14:00 ~ 17:00	14:00						
11 月 7 日 水	14:00 ~ 17:00	14:00						
11 月 15 日 木	10:30 ~ 19:00	10:30	14:00					
11 月 16 日 金	9:30 ~ 12:00					9:30 特別		17:30 懇親会
12 月 14 日 金	14:00 ~ 19:30	14:00						
1 月 18 日 金	9:30 ~ 18:00	9:30	12:00		15:00 ※			18:00 事務局職員との懇親会
2 月 13 日 水	14:00 ~ 17:00	14:00						※全国理事長会
2 月 21 日 木	10:30 ~ 17:00	10:30	14:00					16:30 賛詞交歓会
2 月 22 日 金	9:30 ~ 12:00							
3 月 13 日 水	14:30 ~ 17:00	14:30				9:30 特別		
3 月 20 日 水	10:30 ~ 17:00	10:30	14:00					

関連団体	その他
[青年部会] 総会・全国大会：平成30年4月21日(土) 広島 総会・全国大会：平成31年4月20日(土) 名古屋	平成31年度予定 平成31年4月5日(金) 三役会(12:00) 全国事務局長会議(15:00) 懇親会(16:30) 平成31年5月10日(金) 三役会(14:00) 平成31年5月21日(火) 三役会(10:30) 理事会(14:00) 平成31年6月7日(金) 三役会(9:00) 理事会(11:30) 総会(15:00) 懇親会(17:00) 参考：全統評株主総会(14:00)

* = 変更箇所

北海道支部(鉄骨部会) 状況報告書

(平成 30 年 7 月)

作成日 平成 30 年 8 月 8 日

(A)

支部名	①鉄骨部会各支部の活動状況	②鉄骨部会活動状況
道 央	・ 7/3 三役会、役員会 ・ 7/10 例会 ・ 7/27 ビール会	7/26 役員会、全構協三役との意見交換会
函 館		
室 苦 小 樽		
旭 川	・ 担当学会議 (第 2 月曜日)	
北 見	・ 月例会議	
帯 広	・ 7/31 ビール会	
釧 路	・ 8/3 ゴルフコンペ、ビール会	

(B)

支部名	① 手持ち工事量(ヶ月)			②稼働率 (%)	③ 見積物件数			④ 受注価格(千円)建方込・別		
	H	M	R・J・未		多い	同じ	少ない	S 造 (込)	コラム (込)	SRC (別)
道 央	5~9	2~5	1~5	90~120	4	19	8	220~320	220~400	220~250
函 館	3	4	2~3	90~100	2	4	2	240~300	240~300	
室 苦 小 樽	2~4	1~4	3~4	100~110	3	8	0	200~340	220~340	
旭 川	7~8	5~6		120	0	0	7	250~260	250~270	
北 見		4 以上		110	0	3	0	250~340	250~340	
帯 広	3~5	2~5	2~5	100~120	1	8	0	230~300	230~320	375~390
釧 路	5	3~10	12	90~110	0	5	0	250~330	250~360	

(C)

支 部 名	① 今後の景気動向と見通しについて	② 業界 に提案
道 央	- 各社の山積状況：H グレードは年内から来春まで山積みが高い。M グレードも概ね年内は山積みが高い。RJ 未グレードは良好のところが多い。 - 各社とも山積み調整に苦慮。また、鋼材の納期遅延、図面の決まりの悪さが大きな課題。 - 共同積算：1-7 月 82,894 t、平年比 97%、前年比 91%	
函 館	- 各会員共、先月と変わらず工場稼働率は高く、山積みは多いところで 11 月位まであり、平均 3 ヶ月程度は確保している模様。 - 見積りも平均して例年並みに出て来ており、価格についても大きく変わりなし。	
室 苦 小 樽	- 相変わらず図面承認の遅延があり、製作工程に影響が出ている。 - 鋼材・ボルトなどの納期が遅くなりつつあるため、発注に関して早めの対応が必要である。	
旭 川	・ 先月と状況は変わらず、年内はほほいっばいの状態で来年の話も出始めてきている。	
北 見	・ 各社ともにフル稼働状態。鉄骨の状況を見て、発注待ち物件が出始めている。	
帯 広	- 先月と同様に、図面決定の遅延、業者不足は慢性的な状況。 - 今後は、台風の影響による材料入荷遅れ等が懸念される。	
釧 路	・ 各社フル稼働状態。相変わらず図面の決まりが悪い状態。	

北海道支部(鉄骨部会)状況報告書 (平成 30 年 8 月)

作成日 平成 30 年 9 月 10 日

(A)

支部名	①鉄骨部会各支部の活動状況	②鉄骨部会活動状況
道 央	・ 8/6 三役会、役員会	・ 9/19-20 鉄骨製作管理技術者受験対策講習会 開催予定
函 館	・ 8/18 支部例会	
室 苦 小 樽		
旭 川	・ 担当者会議 (第 2 月曜日)	
北 見	・ 月例会議	
帯 広	・ 月例会	
釧 路	・ 8/3 ゴルフコンペ、ビール会 (38 名出席) ・ 9/7 例会開催予定	

(B)

支部名	① 手持ち工事量(ヶ月)			②稼働率 (%)	③ 見積物件数			④ 受注価格(千円)建方込・別		
	H	M	R・J・未		多い	同じ	少ない	S造 (込)	コラム (込)	SRC (別)
道 央	5~9	2~5	1~5	100~110	5	20	6	220~330	220~385	
函 館	4	4	2~3	100	2	5	1	240~300	240~300	
室 苦 小 樽	2~ 4 以上	1~4	2~ 4 以上	100~ 120 以上	4	6	1	200~340	220~340	
旭 川	7~8	4~5		120	0	0	7	250~270	260~270	
北 見		4 以上		110	0	3	0	250~340	250~340	
帯 広	3~5	2~5	2~3	100~120	1	7	1	240~320	240~320	375~390
釧 路	8	3~10	12	90~110	1	4	0	250~330	250~360	

(C)

支 部 名	① 今後の景気動向と見通しについて	② 業界 に提案
道 央	- 各社の山積状況：H グレードは年内から来春まで山積みが高い。M グレードも概ね年内は山積みが高い。RJ 未グレードも良好。 - 各社とも山積み調整に苦慮。また、図面の決まりの悪さの他、鋼材に加えてボルトも入手困難となってきた。 - 共同積算：1-8 月 92,858 t、平年比 96%、前年比 79%	
函 館	- 各会員共、先月と変わらず工場稼働率は高く、山積みは平均 11 月位まで、一部では年内確保した工場もある。 - 鋼材の納期遅延により、着手延期になった物件もある。 - 見積り量、受注価格については大きく変わりなし。	
室 苦 小 樽	各工場とも図面承認・決定の遅延があり、製作工程に影響が出ている。この状況は今後も続きそうで、製作工程上非常に厳しくなっている。	
旭 川	見積りが少し止まっている感がある。	
北 見	各社ともにフル稼働状態。工程等のずれで、工場は山積み状態となっている。	
帯 広	農産物の収穫時期に伴い、運送業者の確保に苦慮しており、HTB の確保も難しい状況。	
釧 路	図面決定遅延の影響により、工程の乱れが出ている。	

<東 北>支部 平成 30 年 7 月期状況報告

提出日 平成 30 年 8 月 1 日

(A)

① 全構協推進事業の現況		② 支部の活動状況
県 名	現 況 要 旨	活 動 要 旨
青森県	◇7/5～7/7 工場見学会 ◇7/11 青年部 幹事会 ◇7/26 積算業務担当者会議・懇親会	◇7/10 東北積算業務委員会（盛岡）
岩手県	◇7/4,5,6 性能評価（各日 1 社） ◇7/17 盛岡支部会 ◇7/18 県南支部会 ◇7/26～28 青年部創立 30 周年記念視察研修(北海道)	◇7/10～14 超音波探傷基礎講座(多賀城)
宮城県	◇7/9 役員会・青年部役員会 ◇7/12.18.27 技術・品質サポート（3 社） ◇7/25.30 工場審査（2 社） ◇7/26 営業担当者・青年部合同会議・懇親会	
秋田県	◇7/20 営業担当者会議 ◇7/25 役員会、代表者会議	
山形県	なし	
福島県	◇7/11.18.27 工場審査(3社) ◇7/4.9.25 技術・品質サポート(3 社) ◇7/17 青年部役員会 ◇7/20 第 2 回理事会 ◇7/21 会津支部・青年部合同ゴルフコンペ及び暑気払い	

(B)

①手持工事量		②稼働率	③見積件数			④受注価格（単位：千円、SRC は建方別）		
県 名	手持工事量	稼働率	多い	普通	少ない	⑤工場加工費（図面、原寸、塗装含みの工場オントラックまで）		
						S 造	S R C	コラム
青森県	1～10 ヶ月	80～150%			○	180～240 60～100		180～240 60～100
岩手県	1～8 ヶ月	90～100%		○		170～250 60～120		170～250 60～120
宮城県	2～7 ヶ月	60～120%		○		200～250 60～120		200～270 45～85
秋田県	3～6 ヶ月	100～130%		○		～ 65～85		220～220 60～75
山形県	1～5 ヶ月	90～120%			○	200～240 65～110		200～240 65～110
福島県	1～11 ヶ月	70～120%		○		210～260 60～105		180～280 55～110

(C)

①今後の景気動向と見通しについて		②業界対策（意見～提案）	
県 名	見 通 し	県 名	意見～提案
青森県	見積依頼物件数は前月に引き続き減少したが、工場平均稼働率は 100%超えとなった。一方で、鋼材の入手状況が切迫しており、より一層の注意と情報の共有が必要。	青森県	
岩手県	工場稼働率、手持工事量、受注価格、加工費はいずれも横ばい。入手難となる鋼種が増えており、価格の動向と相まって今後のマイナス要因であり、組合員間の情報の共有化を呼び掛けず。	岩手県	
宮城県	仕事量・稼働率に変化は見られない。材料の納期が不透明で先行き不安である。	宮城県	
秋田県	手持ち工事量、稼働率に大きな変動はないが、鋼材入手難の問題が解決されず先行き不透明である。	秋田県	
山形県	県内見積物件数は前月より少ない。仕事量はあるので高値価格につながるよう期待したい。	山形県	
福島県	手持ち工事量、工場稼働率共に高水準を維持。価格に大きな変動は見られないが、鋼材の入手状況が困難な状況が続く先行き不透明。	福島県	

<東 北>支部 平成 30 年 8 月期状況報告

提出日 平成 30 年 9 月 3 日

(A)

① 全構協推進事業の現況		② 支部の活動状況
県 名	現 況 要 旨	活 動 要 旨
青森県	◇8/31 東北支部青年部東北サミット(むつ市)	◇8/28 東北鉄構工業連合会定例役員会 (盛岡)
岩手県	◇8/8 県南支部会 ◇8/21 盛岡支部会 ◇8/23 正副理事長会議 ◇8/28 理事会・納涼会	
宮城県	◇8/2,7 技術・品質サポート (2 社) ◇8/9,22,24 工場審査 (3 社)	
秋田県		
山形県	◇8/3 青年部 工場長能力向上研修会 ◇8/4 技術・品質サポート (1 社) ◇8/7 三役会及び役員会 ◇8/29 青年部役員会 ◇8/21 工場審査 (1 社)	
福島県	◇8/1 技術品質サポート (1 社) ◇8/3.22 工場審査 (2 社) ◇8/21 第 2 回営業責任者会議 ◇8/24 郡山支部会 いわき支部会	

(B)

①手持工事量		②稼働率	③見積件数			④受注価格 (単位: 千円、SRC は建方別)		
県 名	手持工事量	稼働率	多い	普通	少ない	⑤工場加工費 (図面、原寸、塗装含みの工場オントラックまで)		
						S 造	S R C	コラム
青森県	1~13 ヶ月	90~150%	○			210~240		180~280
						60~80		60~105
岩手県	1~8 ヶ月	90~100%			○	170~250		170~250
						60~120		60~120
宮城県	2~7 ヶ月	100~120%			○	200~250		200~260
						65~80		55~110
秋田県	0.5~7 ヶ月	100~130%		○		~		220~220
						~		65~85
山形県	1~5 ヶ月	80~120%			○	200~240		200~240
						65~100		65~100
福島県	1~7 ヶ月	80~120%		○		200~260		180~280
						60~150		60~140

(C)

①今後の景気動向と見通しについて			②業界対策 (意見~提案)	
県 名	見 通 し		県 名	意見~提案
青森県	工場平均稼働率は、前月に引き続き 100%超えとなった。見積依頼物件数は増加したものの、前年度平均値には及ばず、少ないとの声が未だ見られる。また、鋼材の入手状況が著しく悪化しているのが懸念される。		青森県	
岩手県	工場稼働率、手持工事量、受注価格、加工費はいずれも横ばい。各社への見積依頼数が過去最低を更新。鋼材・資材の入手難に拍車がかかっており、動向を注視している。		岩手県	
宮城県	今月の県内見積依頼件数は大幅に減少したが手持工事量・稼働率は高水準を維持。本年度中は継続的に多忙であるが、鋼材の納期遅れ等で先行き不透明。		宮城県	
秋田県	物件数、受注単価に大きな変動はない。昨月に引き続き材料入手困難な問題が解決されていなく先行き不安である。		秋田県	
山形県	今月の県内見積物件数は前月よりも少なく、広域物件は 1 件のみであった。材料の入手困難が続き、手配に苦慮して状況である。		山形県	
福島県	稼働率、手持工事量は横ばい。入手困難な鋼材が増えており、一層の注意と、情報の共有が必要である。		福島県	

関東支部【状況報告書】										
(平成30年7月分)										
提出日 平成30年9月12日										
(A)										
都県名	① 各県組合の活動状況						② 支部の活動状況 (要旨)			
東京	3日関東支部運営委員会、5日～13日工場審査3件、26日M会、理事会、						1. 支部 会議 開催状況 7/24 第2回関東支部会開催 2. 会議予定 8/27関東支部事務局長会議開催予定			
千葉	7/3南部支部会、運営委員会7/5北部支部会7/6非破壊検査研究会総会7/19千葉県知事室寄稿依頼7/20ポリテクセンター会議、東部支部会8/21青年部全体会議7/24関東支部会7/27三役会・40周年実行委員会									
神奈川	7月17日に県予算要望自民党ヒアリングを実施。7月4日にMグレード部会開催。									
茨城	5日茨城県中小企業団体中央会互助会役員会、7・8・14日玉掛け講習(ベトナム実習生)、19日青年部会役員会、その他サポート1社、工場審査1社									
埼玉	4日総務委員会、11日理事会、労務委員会、協力会と共済委員会合同会議、19日埼玉県建設産業担い手確保・育成ネットワーク第1回幹事会、20日組合監査									
栃木	7/2～6 性能評価審査(6社)、7/6 青年部工場見学会・青年部と賛助会との交流会、7/10 運営委員会・技術委員会・経営近代化委員会、7/12 定例理事会									
群馬	7/5総務委員会開催 7/10～7/20性能評価(5社実施) 7/12青年部全員協議会開催									
長野	6/29～7/1: 鉄工検定協力、7/6～8: とび検定協力、7/26: 理事会、7/28～29: UT実技講習会、7/28～29: とび学科講習会									
山梨	<会議等>11日: 理事会、溶接競技大会表彰委員会、30度開先検討委員会 24日: 青年部会 25日: 溶接安全委員会 26日: 経営近代化委員会 30日: 教育技術委員会 <教育等>新入社員教育 アーク・ガス溶接実技9～13日 アーク特別教育・19～21日(一般・帝京高校) ガス溶接技能講習・23～31日(高校5校) <その他>14日: 溶接技能者評価試験 15日: 親睦ゴルフ 23日: 工場審査サポート(M1社)									
新潟	7/03 第1回関東支部運営委員会、7/18 第1回青年部会 7/24 第2回関東支部会議、7/28 第2回関東ブロック協議会 役員会									
(B)										
都県名	① 手持工事量 (ヶ月)			② 稼働率%	③ 見積物件数 (Mグレード)			④ 材料費 (位: 千円) 建方込・別		
	Rグレード	Mグレード	Hグレード		多い	普通	少ない	S造 (込)	コラム (込)	SRC (別)
東京	2～3	4～5	8～12	90～100		○		120～140	—	—
千葉	—	2～8	3～8	80～100		○		115～130	105～138	135
神奈川	4.0	4.0	10.8	95～96		○		95～125	90～150	138～150
茨城	1～3	4～7	6～9	80～120	○			90～120	100～140	130～150
埼玉	2.8	4.6	7.8	90.0～94.1		○		117～121	120～126	—
栃木	2～4	2～8	6～12	90～120		○		105～125	105～135	—
群馬	1～5	3～6	6～12	70～110		○		100～140	110～145	—
長野	4～6	2～6	4～10	30～120			○	85～130	100～140	—
山梨	3～4	2～8	6～11	80～100			○	90～135	90～135	135
新潟	5	4	10	95～105		○		100～125	120～125	—
(C)										
都県名	① 景気の見通し・業界対策に関する意見・提案									
東京	鉄骨製作管理教本が突然会員数分送付されてきたが、JASS6と異なり必ずしも会員数必要とは思わない。事前にニーズを把握して配布する等考慮すべきである。									
千葉	トルシア形高力ボルトM22、M24が不足している為早めの手配が必要。外定H、BCP材料も遅れが目立つ。今年は猛暑のため工程どおり作業が進まない。									
神奈川	鉄骨景気の先行きには何となく夏枯れ的な雰囲気を感じる。									
茨城	JSCAと入手困難な鋼材・資材の情報共有を図ることを検討中									
埼玉	主要鋼材やボルト等の副資材の値上げに始まり、昨今は納期が延びてきたかと思えば品不足の話が出ている。									
栃木	・確認申請遅延、施工図チェック遅れで山積みにしわ寄せが来ている ・溶接工、磨、輸送車両の不足。 ・単価のバラツキが出てきている。									
群馬	施主・設計者・ゼネコンの物決りが遅れて、工事がずれてしまい加工の山積みが高くなってしまいう月がある。									
長野	コラム、ボルト22の需給はひっ迫状態である。鋼材が工期内に手に入るかどうか確認が大事である。									
山梨	鋼材・資材の高止まり、在庫不足、納期遅れがあり発注のタイミングがむずかしい状況にある。									
新潟	6月、7月と共同積算件数は安定しているが、発注には至っていないため、地元物件の大きな動きは見られない。が、共同積算外の地元案件については、水面下での動きは活発との情報もある。 稼働状況は、上位グレードを中心に、全体として繁忙状況で推移している。									

関東支部【状況報告書】										
(平成30年8月分)										
提出日 平成30年9月12日										
(A)										
都県名	① 各県組合の活動状況							② 支部の活動状況 (要旨)		
東京	20日東構塾打ち合わせ会議、29日TB3事務局会議(千葉工業会)							1. 支部 会議 開催状況 8/27 関東支部事務局長会議開催		
千葉	8/27関東支部事務局長会議8/29三役・40周年実行委員会、1都2県合同会議									
神奈川	8月29日東京湾岸1都2県合同戦略会議が千葉組合で開催された。									
茨城	9日東関東非破壊検査研究会役員会、10日第3回理事会、暑気払い、28日JSCA茨城との打合せ会議、その他実習生技能検定、巡回指導									
埼玉	1日総務委員会、8日理事会、9日青年部会役員会、22日展示販売会打合せ会議									
栃木	8/3 青年部役員会、8/25 青年部家族会									
群馬	8/29正副理事長会議、役員会開催 8/29サポート委員会開催							2. 会議予定		
長野	8/1・22・23:工場審査、8/4~5:鉄工学科講習会、8/8:工場指導、8/24~26:UT学科講習会、8/28:技術委員会							10/18第3回関東支部会 10/18関東支部事務局長会議開催予定		
山梨	[会議等]8日:理事会 22日:教育技術委員会 23日:青年部会 24日:溶接安全委員会 28日:教育技術委員会[教育等]ガス溶接技能講習:1日~17日(6高校、1専門校、1大学) 新入社員教育:21日~24日(製図、品質管理、非破壊、破壊) [その他]工場審査受監(MI社 7日) 集団健康診断:29日~31日(甲府、都留、南アルプス 251名受診)									
新潟	8/02 第1回女性部会、8/06 第2回総務委員会、8/17 長岡支部 例会・納涼会 8/21 法定福利費の勉強会(経近委員会)44名参加、8/23 第1回正副理事長会議 8/24 新潟支部 例会・納涼会、8/27 第1回関東支部事務局長会議 8/31 第3回出張理事会(県央)									
(B)										
都県名	① 手持工事量 (ヶ月)			② 稼働率%	③ 見積物件数 (Mグレード)			④ 材料費 (位:千円) 建方込・別		
	Rグレード	Mグレード	Hグレード		多い	普通	少ない	S造(込)	コラム(込)	SRC(別)
東京	2~3	4~5	8~12	90~100		○		120~140	—	—
千葉	—	2~8	3~8	90~100		○		110~125	110~120	120
神奈川	4.0	4.0	10.8	91~96		○		93~130	102~150	140~153
茨城	1~3	4~7	6~9	80~100	○			100~130	100~140	120~140
埼玉	2.8	4.6	7.8	92.6~94.2		○		116~128	116~129	—
栃木	2~4	2~8	6~12	100~120		○		105~125	105~135	—
群馬	1~5	3~6	6~12	90~110		○		100~140	110~140	—
長野	4~6	2~6	4~10	30~120			○	85~130	100~140	—
山梨	3~4	2~8	6~11	80~100			○	95~140	95~140	120~130
新潟	5	4	10	95~105		○		100~125	120~125	—
(C)										
都県名	① 景気の見通し・業界対策に関する意見・提案									
東京	ボルトの入手が困難状況が続いているが、需要側の先取りが拍車をかけている実態がある。									
千葉	鋼材の不足による入荷が遅くなっている為(BCP・HTBが揃いにくい)早めの手配をしている。一次加工の納期が通常より時間がかかるようになってきている。鉄骨加工者の不足。									
神奈川	鋼材、溶材、ボルトなど材料調達に難あり。									
茨城	地場GCの圏外への見積もりが増えている。ボルト、トラック、一部鋼材の手配が逼迫気味。									
埼玉	材料等の値上げに始まり、最近ではボルト等の品不足と言われ、更に製品輸送にもトラックの手配が困難となってきたおり、2、3重苦の様相を呈している。									
栃木	・確認申請遅れ、施工図チェック遅れで山積みにしわ寄せが来ている ・溶接工、薦、輸送車両の不足。									
群馬	材料の入荷待ちで稼働率が上がらない。建築用ボルトの入荷が遅れ、建方工事が進まない。									
長野	仕事は山積みである。材料(ボルト他)の入手困難で、納期に遅れがあり、建方の遅延がでている。青年部ではMRデバイスを利用した建築鉄骨業製造支援ソリューションの開発が話題となっていた。									
山梨	資材の在庫不足や納期遅れがあり、工期に合わせる事が難しい状況にある。									
新潟	稼働状況は、上位グレードを中心に全体として繁忙状況で推移しており、加工側が手一杯で、加工先が決まらず宙に浮いている案件も出てきている。 高力ボルトの入手や、とび・運搬業者の手配が困難となってきた。									

《 北陸 》支部 状況報告

(平成30年7月分)

(A)

提出日：平成30年9月4日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
県名	活動要旨	活動要旨
富山県	7/19 建専協・会計監査 7/30 第3回正副理事長会・第2回理事会	7/4 第1回北陸支部役員会(金沢) 7/12 全構協・第4回理事会(東京) 7/13 全構協・品質管理委員会(東京)
石川県	7/3 建設業労働災害防止大会 7/9 第4回三役会、理事会 7/10 第3回青年部役員会 7/13 第2回金沢支部会 7/17 第1回加賀支部会 7/18 鉄骨製作管理技術者更新講習会(金沢) 7/19 前期工場審査(1社) 7/25 社会保険加入推進会議(県庁)	
福井県	7/7 青年部会例会 7/12 定例三役会、定例理事会 7/18 認定部会役員会、例会 7/20 総務委員会 7/23 技術委員会 7/25 共同受注委員会 7/27 認定工場技術委員会品質サポート(~7/31)	

(B)

※ ④富山県は、本体の加工費のみ・オントラ渡しとする

県名	①手持工事量 (ヶ月)	②稼働率 (%)	③見積物件数			④受注価格(単位:千円)建方:含む		
			多い	普通	少ない	S造	SRC造	コラム
富山県	3 ~ 10	90 ~ 110		○		~	~	80 ~ 120
石川県	3 ~ 10	80 ~ 100		○		190 ~ 250	~	200 ~ 250
福井県	3 ~ 10	80 ~ 120		○		180 ~ 260	~	190 ~ 260

(C)

①今後の景気動向と見通しについて ②業界対策	
県名	見通し・意見・提案
富山県	全グレードのファブに対し、底堅い需要が続いており、忙しい状態も続いている。需要がタイト化する中で、鉄骨価格が上昇しているが、その背景にあるのは、鋼材・副資材等の値上げ、輸送費の上昇によるコストアップである。当面コスト高は続くと思われ、単価の引き上げをしていかねば、実質の加工費が下がることになりかねない。
石川県	各グレードとも忙しい状態が続いており、稼働率は良好。ロール材の入荷待ちに加え、ハイテンションボルトの入手難で建て方が計画通りに進むのか危惧される。受注単価は維持されている様子。
福井県	概ね依然として繁忙状態が続いている。しかし図面承認遅れ、現場人材不足による工事遅延、材料入手遅延などが重なり工程計画に苦慮している所が多く見られる。特にBCP材などは10ヶ月待ちの声も聞かれ、設計者や客先の理解が不可欠な時期となっている。

《 北陸 》 支部 状況報告

(平成30年8月分)

(A)

提出日：平成30年9月4日

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
県名	活動要旨	活動要旨
富山県	8/21 建専協・全体会議 8/26 青年部会・バーベキュー懇親会	8/22 全構協 運営委員会(東京)
石川県	8/8 第4回青年部役員会 8/18 JSCAとの納涼懇親会 8/25 青年部BBQ会(能登) 8/28 中小企業団体中央会研修会	
福井県	8/1 県鉄工業協同組合連合会事務局会議 8/3 青年部会県外工場視察 8/7 定例三役会、定例役員会 8/9 性能評価認定工場審査(～8/23) 8/10 県建築業団体連合会役員会 8/25 認定部会役員会	

(B)

※ ④富山県は、本体の加工費のみ・オントラ渡しとする

県名	①手持工事量 (ヶ月)	②稼働率 (%)	③見積物件数			④受注価格(単位:千円)建方:含む		
			多い	普通	少ない	S造	SRC造	コラム
富山県	3～8	90～110		○		～	～	70～110
石川県	3～10	90～100		○		190～250	～	200～250
福井県	3～10	80～120		○		180～260	～	190～260

(C)

①今後の景気動向と見通しについて ②業界対策	
県名	見通し・意見・提案
富山県	グレードに関係なく非常に忙しい状態が続いており、仕事量の心配もない様に思われる。鉄骨単価は強横ばいで推移しているものの、鋼材・副資材の上昇や運送費の急激な上昇により、現状の単価を圧迫している。これらのコストアップ分を単価に転嫁していかなければならないが、GCとの折衝はなかなか難しいようである。
石川県	前月同様に繁忙状態、高稼働率が続いている。依然としてロール材、BH、ボルトの入手難(3ヶ月～半年先)が続いている。この状態が続くと、建て方出来なくなり、地場GCの物件は受注できなくなる恐れあり。運送用トラックの手配にも苦慮している状況。
福井県	各工場ともに概ね繁忙状態が続いているが、工事の殆どは民間物件であり県内公共工事はわずか。先日発表された福井県補正予算案に建築関連事業が含まれていないことから、今秋開催の福井国体関連工事に向けて既に財源を集中投資してしまった影響が出てきているものと推測される。県都福井市においても今冬豪雪による膨大な除雪経費をカバーするため主要事業を見直すなどしているため、今後の県内公共工事縮小の傾向に不安が残る。構成員工場の売り上げ見通しは明るいが組合事業「共同受注事業」については対策が必要となる時期である。

< 中 部 > 支 部 状 況 報 告

(平成 30 年 7 月分)

提出日 平成 30 年 9 月 10 日

(A)

①全構協推進事業の現状		②支部活動状況
都道府県	各県組合活動・行事等	中部支部活動・行事等
愛知県	4 日 (水) 女性部会 愛知県:建設技術研修 講師派遣 17 日 (火) H部会 20 日 (金) 名古屋北支部会 31 日 (火) 溶接:学科講習会 性能評価工場審査 4件	2 日 (月) 中部支部会 7 日 (土) 青年部:中部BC 12 日 (木) 全構協:理事会 出席
静岡県	25 日 (水) 役員会	
三重県	・平成30年度前期審査受験工場4社に対するサポート2回目 ・京都府組合との交流会懇談テーマ作成 ・県営繕課との意見交換会の実施	
岐阜県	11 日 (水) 岐阜支部会 14 日 (土) 西濃支部会・中濃支部会・東濃支部会 20 日 (金) 理事会 26 日 (木) 飛騨支部会	

(B)

①手持工事量(ヶ月)		②稼働率(%)	③見積物件数			④受注価格(単位:千円) < 建方 = 含む >		
都道府県	手持工事量	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S 造	コラム造	SRC造
愛知県	1 ~ 12	100 ~ 150		○		200 ~ 300	200 ~ 300	—
静岡県	2 ~ 10	90 ~ 120		○		205 ~ 280	190 ~ 260	—
三重県	5 ~ 12	90 ~ 100		○		190 ~ 230	200 ~ 250	—
岐阜県	1 ~ 7	50 ~ 150	○	○		200 ~ 220	190 ~ 250	—

(C)

①今後の景気動向と見通しについて		②業界対策(意見～提案)
都道府県	見 通 し	意 見 ～ 提 案
愛知県	・高力ボルトの入手困難!の組合員の声が多くなった。 ・受注に困らないものの、選択に注意が必要な趨勢である。 ・工程計画を念頭に受注の必要がある。	「会報や全構協通達文書」で高力ボルトの調達情報を流すべきである。
静岡県	仕事は高水準で推移し稼働率も高いが、鋼材価格の上昇と供給不足が表面化しており、更に施工図の決定遅れや工事そのものの遅延等の影響から、行程不順に対する対応で収益が圧迫される恐れが高い。	左記の情勢の変化について、建設業界の上工程にいかにして理解してもらい、業務運営に反映してもらうことが出来るか。そのために正確な情報を得て、交渉力を高めていく。
三重県	・来年の案件見積りが多くなっているとか、普段取引のないゼネコンから見積り依頼があるとかの事象が多くなっている。 ・東京オリンピック以降についても大変忙しくなるのでは?	材料、特にボルト類の入手が困難になりつつあるので注意が必要。
岐阜県	・相変わらず、工程変更によって振り回され大変。 ・鋼材の手配に時間がかかる。 ・建築構造用冷間成形角形鋼管(BCP/BCR)の入手に半年以上時間がかかる。 ・各社非常に忙しい状況。 ・材料納期に注意が必要。 ・一次加工も納期が間に合わない。 ・年内は続きそうです。物件の選択も大事になると思います。 ・ボルトが入手困難である。 ・2か月先の発注を要求される。	・人材難。ここ1～2年ハローワーク等求人募集をしても問い合わせづらい状況。外国人実習生の採用を検討したいという声。

＜ 中 部 ＞ 支 部 状 況 報 告

(平成 30 年 8 月分)

提出日 平成 30 年 9 月 10 日

(A)

①全構協推進事業の現状			②支部活動状況	
都道府県	各県組合活動・行事等		中部支部活動・行事等	
愛知県	7 日 (火)	技術委員会	4 日 (土) 青年部:中部BC 22 日 (水) 全構協:運営委員会 出席	
		青年部会		
	8 日 (水)	女性部会		
	22 日 (水)	溶接:実技講習会		
	23 日 (木)	溶接:実技講習会		
	24 日 (金)	名古屋南支部会		
		西三河支部会		
	27 日 (月)	溶接:試験		
28 日 (火)	溶接:試験			
性能評価工場審査 3件				
静岡県				
三重県	・平成30年度前期審査受験工場4社に対するサポート3回目 ・性能評価審査実施			
岐阜県	11 日 (土)	岐阜支部会		
	14 日 (火)	西濃支部会		
		東濃支部会		
	24 日 (金)	外国人実習生受入委員会		

(B)

①手持工事量(ヶ月)		②稼働率(%)	③見積物件数			④受注価格(単位:千円) < 建方 = 含む >		
都道府県	手持工事量	稼働率(%)	多い	普通	少ない	S 造	コラム造	SRC造
愛知県	1 ～ 12	100 ～ 150		○		200 ～ 300	200 ～ 300	—
静岡県	3 ～ 10	80 ～ 120		○		220 ～ 260	195 ～ 270	—
三重県	5 ～ 12	90 ～ 100		○		190 ～ 230	200 ～ 250	—
岐阜県	3 ～ 6	100 ～ 110	○	○		200 ～ 220	190 ～ 220	—

(C)

①今後の景気動向と見通しについて		②業界対策(意見～提案)
都道府県	見 通 し	意 見 ～ 提 案
愛知県	・受注した工事に必要な資材の調達困難の声が頻繁である ・ボルト類に加え、一部の鋼材は全く手配できないとの悲鳴 ・好況時であれ不況期であれ、いつも苦しめられる業界だ。	地方での各県組合や組合員の個々の折衝で効果は期待できず、 こういう時こそ全構協で、行動してほしい。
静岡県	鋼材、ボルトの供給不足は、特定地域の大型物件の 影響でかなり深刻化している。施工図の決定遅れや 工事そのものの遅延等の影響は、工程不順への対応で 収益を圧迫し始めているが、その傾向がこの夏、更に 加速する恐れが強い。	各社の努力だけでは賄い切れない部分を、同業者間の相互努力で いかにして乗り切ることができるか、或いは新しい技術の導入に よる効率化で乗り切ることが出来るか。
三重県		設計事務所よりボルトの入手難についての問い合わせがあった 業界としてメーカーへの対応が必要では？
岐阜県	・各社忙しい状況が続いているが、材料納期に注意が 必要。 ・ボルトの入手が非常に困難(75～90日程度)。建て方が ボルト待ちの物件も。	

近畿支部状況報告

(平成30年7月分)

提出日：平成30年8月8日

(A)

府県名	① 全構協推進事業の現状 現 況 要 旨	② 支部活動状況 活 動 要 旨
滋賀県	・7/11 性能評価工場審査 1社 ・7/17 認定工場部会	7/3・4 全構協近畿支部 第2回移動支部会 7/12 全構協 第3回 理事会
京都府	7/2・5・9・13 工場審査 7/6 溶接競技会表彰式 7/14 AW 合同受験 7/18 第2回運営委員会 7/26 理事会・中支部会	
大阪府	・性能評価審査 7/2.6.9.12.23.27 ・市内支部会 7/3 ・工場パトロール 7/5.11.17.19.25 ・東支部会 7/6 ・7/26 北支部会	
兵庫県	・7/10 第2回理事役員会 ・前期工場審査 5社 ・サポート12回	
奈良県	・7/11 南和支部会 ・7/18 中北和支部会 ・7/31 青年部会	
和歌山県	・7/2 近代化委員会 ・7/12 「入熱・パス間温度管理」勉強会 ・7/26 田辺市へS造化推進 説明	

(B)

府県名	手持ち工事量 (何ヶ月分)	稼働率 (%)	見積物件数			受注価格(単位：千円) 建方=含む・含まず		
			多い	普通	少ない	S造	SRC造	コラム
滋賀県	3～10	90～100		○		195～270	～	200～240
京都府	3～8	90～100		○		180～230	～	180～240
大阪府	3～5	90～100		○		170～220	190～240	180～230
兵庫県	3～6	90～100		○		180～220	～	180～230
奈良県	3～4	100～120	○			200～250	～	200～250
和歌山県	3～12	90～100		○		190～230	190～230	190～230

(C)

府県名	① 今後の景気動向と見通しについて	② 業界対策(意見～提案)
滋賀県	前月同様に各グレードとも依然山積みは高い。秋口以降は若干の隙間が出そう。電炉メーカーは弱みだが高炉メーカーは現状継続しそうなので価格自体は横ばい傾向。	特になし
京都府	仕事の量的には山積み高く心配はしていない。鋼材、副資材の高騰種類に依り入手難、図面承認の遅延、溶接工、及び人材不足、運搬外注費等の値上り問題山積み受注単価に上乗せできるか今後しばらくの課題になりそう。全体的に安定して仕事量はある模様で、先行きはそれほど心配する事はない状況である。	引合いは沢山ある。直近の仕事については、加工能力上、丁重にお断りしている。上位客先には断り切れず仲間の助けを借りて対応している。 7月の暑さが異常な為、暑さ対策と人員の健康管理に気を付ける。
大阪府	現在は、各社とも仕事量を確保し忙しくしているが、最近物件報告が少なくなっているのが気掛かり。大きな計画の話も少ないようでこれも気掛かり。	「人手不足の対策」と「適正な受注価格を守る」を言い続けなければならない。
兵庫県	今月に入り各社非常に忙しそうで、応援依頼が多数ある状態。確認申請待ち、鋼材入荷遅れ等で工程ずれが生じている状況。	人材の確保(特に溶接工)が課題 情報交換を密にして各工場の状態を把握し、助け合える様にすることが肝要である。
奈良県	10～12月にかけて物件が集中している先の工程が入られ、実際その工程が延び延びになっているので、工程通りでないものが後回しになっている。先々まで引合いはあるが鋼材・ボルト等の供給状況に不安がある。年内はいっぱいになっている。仕事量はあるものの、薦・溶接工の不足による工程管理が難しくなっている。	人材不足が深刻。鋼材等の納入ずれによる納期遅延について客先に了解がもらえるようにPRなどが必要に思う。人材不足をどう対応していくのか検討が必要。 夏季の公共工事等の仕事時間も検討すべき。
和歌山県	夏の仕事量が多いので、工程管理、暑さ対策が必要。 H・Mグレードは、今年の山積みは確保している様子。	・ボルト等の副資材が品薄なので、早めの明細提出が重要。不足があっても対応してもらえない事がある。

近畿支部状況報告

(平成30年8月分)

提出日：平成30年9月6日

(A)

府県名	① 全構協推進事業の現状 現 況 要 旨	② 支部活動状況 活 動 要 旨
滋賀県	・特に無し	・8/22 全構協 運営委員会
京都府	・8/4 青年部近畿ブロック役員会 ・8/10 青年部会・鉄骨部会との懇親会 ・8/22 西支部会 ・8/28 運営委員会	
大阪府	・8/10 工場パトロール ・8/20 性能評価審査 ・8/22 定例理事会 ・8/28 JASS6 改定に関する講習会 ・8/30 南支部会	
兵庫県	・前期性能評価工場審査 6社	
奈良県	・8/6 共済・経営近代化委員会 ・8/7 第3回理事会 ・8/25 親子ものづくり ・8/29 臨時三役会	
和歌山県	特に無し	

(B)

府県名	手持ち工事量 (何ヶ月分)	稼働率 (%)	見積物件数			受注価格(単位：千円) 建方=含む・含まず		
			多い	普通	少ない	S造	SRC造	コラム
滋賀県	3～10	90～100		○		195～270	～	195～240
京都府	2～8	90～100		○		180～240	～	180～250
大阪府	3～5	90～100		○		180～220	190～240	190～230
兵庫県	3～6	90～100		○		180～220	～	180～230
奈良県	5～10	80～120		○		230～260	～	200～260
和歌山県	3～12	90～100		○		190～230	190～230	190～230

(C)

府県名	① 今後の景気動向と見通しについて	② 業界対策(意見～提案)
滋賀県	工場の稼働は各グレードとも前月と変わらない。鋼材価格は上昇傾向。PL類・コラムとも今後の値上げが予測される。HTBの発注は各社注意が必要。	特になし。
京都府	相変わらず見積、引合物件は旺盛な状況ですが鋼材、高力ボルトの入手難、図面決定の遅延溶接工、トビ、かじ工の不足単価高騰、輸送難等課題も山積みです。年末まで各社とも手持ち仕事量は確保している。来年に向けての見積りが少しでも決まって貰いたい。少なくとも本年中の受注量は繁忙で推移する。	資材(ネジ・ボルト)等入荷しにくい状態である為早めの発注を。仕事量が多いので、人員を確保しないといけない。仕事が集中し断らなければならない時がある。今年度分は工場加工能力満杯で有るが得意先の仕事を断り切れず協力工場に助けを得て対応しているがもうそれも限界です。
大阪府	現在は、全体に3ヶ月～5ヶ月程度の仕事量を受注して忙しくしている。最近でも仕事の声が頻繁に来る。ただ高力ボルト、コラム、板材の供給不足による長納期化が深刻になっている。	受注する前に使用材料の確保が出来るのか、よく検討することが大事。
兵庫県	前月同様に各グレードとも忙しそうで暫くはこの状態が続くと思われる。こども園関係の見積もりが少し増えてきたように思われる。	ハイテンションボルト(仮ボルト共)の欠品、品薄が深刻な模様。早期の発注が重要で、建て方にも影響している物件があるという話も。
奈良県	12月まで受注を確保している。年内、春先まで仕事が一歩。大型案件がでている。1件入ると他物件が受けられない。色々な物が品薄になっているので納期・単価の注意が必要。来年ぐらいまでは順調に行きそう。年末にかけ見積が増えていく。東京の仕事がサリッパに向けて決まって来ている。	若手の人材確保が問題である。納期は鋼材だけは無い。遅れが分かるもの(タリナモノ)が欲しい。鋼材及び人員の確保。人材育成と教育(溶接等)が急がれます。
和歌山県	工程上、変更や追加に対応していく中で先行して決定している物件の図面を進めることができず苦労している。中長期の対応策を考えなければならない。	・年内物件については、ボルト明細をメーカーに事前に送り品不足に対応。

中国支部・状況報告
(平成30年7月分)

提出：平成30年8月8日

(A)

① 各県活動状況			② 支部活動状況
県名	日時	現況要旨	活動要旨
鳥取県	5日	工場審査(1社)	
	13日	東部鉄骨工業会例会	
	21日	技能検定「鉄工」実技講習会	
	28日	技能検定「鉄工」実技試験	
島根県	5日	工場審査(1社)	
	6日	工場審査(1社)	
岡山県			
広島県	12日	全構協 理事会(東京)	
	13日	全構協 企画委員会(東京)	
	19日	建築学会中国支部鋼構造セミナー準備会議	
	20日	鉄骨製作管理技術者更新研修	
山口県	21日	安全衛生活動講習会	
	31日	全構協 技術委員会(東京)	

(B)

(下記項目の内③は、該当項目に○を、④は、<>に、○をつける。)

① 手持工事量(ヶ月)		② 稼働率(%)	③ 見積物件数			④ 受注単価(千円)<建方=含む>		
県名	手持工事量	稼働率	多い	普通	少ない	S 造	SRC造	コラム造
鳥取県	2~6ヶ月	90~120%	○			200~220	—	200~235
島根県	1~6ヶ月	80~100%		○		200~240	—	220~240
岡山県	1~6ヶ月	90~100%			○	210~235	260~285	215~235
広島県	3~21ヶ月	80~120%		○		200~240	—	200~240
山口県	3~5ヶ月	100%	○			265	285	260

(C)

① 今後の景気動向と見通しについて		② 業界対策(意見・提案)
県名	景気動向と見通し	活動要旨
鳥取県	7月に入り仕事の引き合いも多く、受注残の山が高くなっており、新規受注を断るファブもある。この状況は年明けまで継続すると予想される。ファブの繁忙状況がゼネコン等にも浸透してきたらしく、鉄骨価格は安定状況が続いている。鋼材・高力ボルト等の値上げを価格反映するよう努めたい。	
島根県	全般に年内の仕事は確保されている模様。外注先を探すのも困難で、受注過多で新規受注を断るファブもある。鋼材に関しては、高炉メーカーの6月からの販売価格引き上げに始まり、価格上昇が本格化するとと思われる。仕事量が多く対応に苦慮するファブの現状を、元請等に理解してもらいたい。	
岡山県	首都圏の大きな需要に沸くHグレードだけでなく、Mグレードも年内までの仕事量確保の状況であり、秋以降の西日本豪雨の復興需要を考慮すれば、仕事の総量的な心配はない。但し、人件費の一時的な高騰が懸念材料。	
広島県	依然として高い稼働率が維持され、回答企業の60%が稼働率100%かそれ以上で、繁忙期と考えられる。仕事量は総じて確保されている。1年以上先まで確保のHグレードのほか、Mグレード以下では受注残の格差が生じているが、秋口に向け、全体的な仕事量増加が予想される。7月初旬の豪雨災害により、一部企業の深刻な被災や交通事情悪化による輸送への影響等が生じた。また、その後の打ち続く異例の猛暑により、従業員の疲労、作業効率の低下傾向は避けられず、外注導入等による定時操業(残業ゼロ)で夏場乗り切りを図るファブもあるなど、各社対策に頭を悩めている。加えて、鋼材の需給ひっ迫と納期長期化に加え、高力ボルトまでも品薄、事前発注が必要な事態になるとともに、輸送手配についても、引き続き苦労する声があがっている。	
山口県	鉄骨工事物件数及び仕事量は、若干減少傾向で推移。先月に引続き、県外工事主体で忙しいS・Hグレードファブの仕事量は極端に多く、Mグレード以下のファブも3~5ヶ月の手持ち工事量を確保している。但し、図面の遅れ等で稼働率は低下気味。工事価格も、鋼材価格の値上がりに応じた上昇傾向が続く。年内一杯は県内の全ファブの稼働率が100%以上を見込む中で、車両の確保など運搬の問題が深刻化しつつある。	

中国支部・状況報告

(平成30年8月分)

(A)

提出：平成30年9月10日

① 各県活動状況			② 支部活動状況
県名	日時	現況要旨	活動要旨
鳥取県	7日 10日 31日	理事会 総務委員会・技術委員会例会 合同懇親会 東部支部例会 次世代の会例会	1日 全構協中国支部会（第3回）
島根県	22日 23日	役員会 青年部会 役員会	
岡山県	2日 6日 28日	工場審査 第2回理事会 第3回（臨時）理事会	
広島県	9日 30日 31日	三役会・理事会 建築学会中国支部 鋼構造セミナー準備会議 鉄骨技術研究開発 実験見学会	
山口県	9日 10日 22日	第3回理事会 工場審査サポート 工場審査	

(B)

(下記項目の内③は、該当項目に○を、④は、<>に、○をつける。)

① 手持工事量（ヶ月）		② 稼働率（%）	③ 見積物件数			④ 受注単価（千円）〈建方=含む〉		
県名	手持工事量	稼働率	多い	普通	少ない	S 造	SRC造	コラム造
鳥取県	3～6ヶ月	90～120%	○			195～210	—	200～230
島根県	1～4ヶ月	70～100%		○		210～240	—	210～250
岡山県	1～6.5ヶ月	80～100%			○	210～235	260～275	220～240
広島県	3～12ヶ月	80～130%		○		195～240	—	200～240
山口県	3～5ヶ月	100%	○			265	285	260

(C)

① 今後の景気動向と見通しについて		② 業界対策（意見・提案）
県名	景気動向と見通し	活動要旨
鳥取県	年明け後までかなりの受注残を確保しているファブが一般的で、受注残は高い山を維持している。 一方で、コラム、HTB等材料の納期長期化により、先行手配の状況を踏まえた建て方日設定について、受注先との調整が重要。工期が定まっている公共工事は、特に要注意。	鳥取県 HTBの納期長期化により、建て方大幅遅れが発生中。 業界として、以下の対応ができないか。 ①ゼネコンや設計事務所に対する周知。 ②高炉メーカーに供給量維持を要請。
島根県	全般に、年内の仕事量は確保出来ており、人手不足の状況。また、受注過多により新規受注が不可能なファブもある。鋼材に関しては、強含み様子見の状況で、先行き不透明感が漂っている。	
岡山県	高稼働率を維持しつつ繁忙期に突入している。 首都圏を顧客とするHグレードはすでに再来年の工事調整にかかるほどの忙しさ。地元物件中心のMグレード以下は、年内ほぼ一杯の状況だが、年明け以降は不透明。 加えて、材料、部品の調達が厳しさを増すなど、環境は予断を許さない。	
広島県	依然として高い稼働率が維持されており、回答企業の7割が稼働率100%がそれ以上で多忙と答えている。 手持ち工事量が1年超のHグレードを筆頭に、各社概ね今年一杯の仕事量は確保しているが、来年に向けた見積りが予想外に少ないと心配するファブの声も聞かれる。 繁忙期ゆえに、図面承認の遅れによる工程遅延の影響に苦しむファブが多い。また、材料調達面で、BCPなど鋼材に加えHTBにまで入手困難と納期長期化が進展し、大きな懸念材料となっている。	
山口県	鉄骨工事物件数及び仕事量は、先月同様、若干減少傾向で推移している。 県外工事主体で超多忙のS・Hグレードファブは勿論、Mグレード以下のファブも最低で2～3ヶ月の手持ち工事量を確保しているが、図面遅れ等で稼働率は低下気味。 工事単価も、鋼材価格の安定により、変動はない。 鋼材一次加工の納期長期化、高力ボルトの入手難、現場嵩不足やトラック手配難などの懸念材料は多い。	

(四 国) 支部 状況報告

(平成30年7月分)

提出日 平成30年8月 10日

(A)

①正会員活動状況		②支部活動状況
都道府県名	活 動 要 旨	活 動 要 旨
徳島	7/2.3 AWW講習会 7/4.5 鉄工技能(実技)講習会 7/14 ゴルフコンペ 7/17 第4回情報交換会、理事会	
香川	7/ 4 工場審査 7/ 6 当組合各委員長会議 7/14 中讃支部会 7/23 西讃支部会 7/26 高松支部会	
愛媛	7/05東予地区会 7/12理事会・JASS6講習会 7/21・22東予地区会研修旅行	
高知	7/ 6 中央・西支部会	

(B)

①手持工事量(ヶ月)		②稼働率(%)	③見積件数			④受注価格(単位千円)建方を含む		
都道府県名	手持工事量	稼働率	多い	普通	少ない	S造	SRC造	コラム
徳島	1 ～ 6	80 ～ 100			○	200 ～ 250	～	200 ～ 230
香川	2 ～ 6	80 ～ 100		○		200 ～ 260	～	～
愛媛	2 ～ 7	90 ～ 100			○	190 ～ 250	～	～
高知	2 ～ 5	80 ～ 100		○		200 ～ 250	～	～

(C)

①今後の見通し

都道府県名	見 通 し	意 見 ～ 提 案
徳島	7月の見積り件数は、前月比33%減少し、県内物件も、同じく33%減少している。多くの組合員が、見積り件数が少ないと感じている。Hグレードは、県外物件の(関西、四国)受注量が多く年末まで忙しい状態が続く。Mグレード以下も、秋までは受注がある状態。	性能評価制度のPR。積算会社の活用。 法定福利費を含んだ見積書を実施する。 組合員同士、仕事の分け合い、助け合い等連絡を密にし、安値受注を避ける。
香川	先月に引き続き全組合員フル稼働の状態にあり稼働率は高い。尚、Mグレードの手持工事量は年内まで確保しているFABが多く、また先行き状況も明るい見通しが想定される。	稼働率が高い水準を推移している中、人手不足の問題が出ており人材確保に注力しているFABが増えている。従って、外国人を含めた人材確保の情報交換も重要と思われる。
愛媛	まずは7月豪雨について工場が浸水した組合員がいたが、当時加工中の物件については組合員数社が手分けして手伝い大体終いおえたとの事。次いで組合員の手持工事量について大部分で10月末まで確保、規模の大きいFABで年末から来年5月まで確保しているとの事。東予地区では建築鉄骨以外の製函・造船関連の受注が中心のFABもある。	時間も人件費も掛かる不必要な見積を省くためにも更にKSシステムを活用して組合員間での物件情報交換を進める事が重要である。昨年度の全構協アンケートから大部分の構成員で営業黒字である。この良い状況をどの様に維持していくか、今後業界としてどの様に進めばよいか検討していく事も重要。
高知	見積り件数は前月と同じ位で前年件数を上回っている。手持ち工事量はMで4～6ヶ月位でRも含め適度な稼働率で推移している。価格は横這い傾向である。今後の見通しは期待するFABが6割程度。	物件報告を徹底し情報を共有し 適正価格での受注を目指す。法定福利費を明示した見積書の推進を行い全社が明示するように徹底していく。

(四 国) 支部 状況報告

(平成30年8月分)

提出日 平成30年 9 月 11日

(A)

①正会員活動状況		②支部活動状況
都道府県名	活 動 要 旨	活 動 要 旨
徳島	8/17 第5回情報交換会 8/23.20 鉄工技能(学科)講習会 8/8.25.27 AW検定準備講習会 8/9.10.22 UT-2(実技)講習会	
香川	8/4 中讃支部ゴルフコンペ 8/6 中讃支部研修旅行検討会 8/8 第3理事会	
愛媛	8/ 2東予地区会 8/ 4青年部例会	
高知	8/22 塗料打ち合わせ 8/30 中央会講習会	

(B)

①手持工事量(ヶ月)		②稼働率(%)	③見積件数			④受注価格(単位千円)建方を含む		
都道府県名	手持工事量	稼働率	多い	普通	少ない	S造	SRC造	コラム
徳島	2 ～ 6	90 ～ 100		○		200 ～	～	～
香川	2 ～ 6	80 ～ 100			○	210 ～ 250	～	～
愛媛	2 ～ 7	90 ～ 100		○		190 ～ 250	～	～
高知	2 ～ 5	80 ～ 100		○		200 ～ 250	～	～

(C)

①今後の見通し

都道府県名	見 通 し	意 見 ～ 提 案
徳島	8月の見積り件数は、全体では前月比27%増加したが、県内物件は9%の増加。県外物件の見積りが多い状況が続いている。各社とも手持工事量が多い状態が続いている。年内続くと思われる。HTBの納期に注意が必要。	性能評価制度のPR。積算会社の活用。法定福利費を含んだ見積書を実施する。組合員同士、仕事の分け合い、助け合い等連絡を密にし、安値受注を避ける。納期管理が必要。
香川	見積り件数は若干少ないが、手持工事量是他県から協力依頼物件なども含め2ヶ月から6ヶ月が見込め先行きの期待感もある。	人手不足・契約の遅れ・鋼材の値上がり・高力ボルトの品不足など取り巻く環境は厳しくなっており、その対策をどうするかが急務であり組織的にも検討する必要があると思われる。
愛媛	加工能力の大きいFABで来年夏までの引き合いが来ている。県内物件についても各社とも見積り物件はこの非常に多いとの事で年末に向けては各社とも需要は見込めると考える。課題は値上がりが続く鋼材と鋼種による入手難、現場人件費でも驚・現場溶接では×2倍の言い値から値段交渉が始まる感じで、ゼネコンとの交渉も以上の事を見据えたものに。	見積り件数が多いFABでは受注意思の無い見積りについては他社の見積りを参考にするなど、KSシステムを有効活用しており、仕事の効率化・見積り経費減に繋がっている。現状、大部分の構成員で営業黒字である。この良い状況をどの様に維持していくか、今後業界としてどの様に進めばよいか検討していく事も重要。
高知	見積り件数が前月と比較し2割程度減少している。手持ち工事量はRで2～4、Mで3～6程度あり稼働率は高い状態である。価格は横這い傾向が続いている。	物件報告を徹底し情報を共有し 適正価格での受注を目指す。法定福利費を明示した見積書の推進を行い全社が明示するように徹底していく。

九州支部状況報告

(平成30年7月分)

(A)

提出日:平成30年8月6日

県名	① 県内の活動状況	② 支部活動状況
		活動要旨
福岡	・7/3・7/5 性能評価工場審査 ・7/11 技術委員会 ・7/25 JASS6改定説明会およびJASS6改定に伴う基準マニュアルの改定説明会	・7/7 建築鉄骨(製品・超音波)検査技術者学科試験 ・7/21～7/25 NDI-UTレベル1基礎対応講習会
佐賀	7/5・12 工場性能評価審査(3社) 7/20 青年部会役員会 7/24 第3回定例理事会	
長崎	7/4 工場審査サポート 7/6 前期工場審査(1社) 7/17 建産連総会 出席 7/18 第4回理事会、7月例会、JASS6改定講習会、建築鉄骨外観検査講習会 7/27 第1回検査・技術委員会	
熊本	7月10日理事会・定例会開催・7月19日工場審査(Mグレード)	
大分	7/3(福岡)鉄骨製管理技術者更新講習・試験 7/18、19工場審査事前打合せ 7/25、26工場審査直前打合せ 7/30工場審査(2社)	
宮崎	10日:第2回理事会 19日:新規会員勧誘活動(1社) 20日:自民党県連による要望ヒアリング参加 25・26・日:安全パトロール(2社)・24・27・30日認定事前指導(4社)	
鹿児島	10、12日性能評価支援パトロール 19日総務委員会 28日青年部会レクリエーション・臨時役員会	
沖縄	・7/3:定例理事会、7:製品検査技術者学科試験、12日:定例営業部会、13日:建専連と総合事務局幹部との意見交換会、25日:技術委員会、27日:JASS6改定に伴う説明会(外部講師)	

(B)

県名	① 手持工事量(ヶ月)			② 稼働率 (%)	③ 見積物件数			④ 受注価格(単位:千円)(建方=含む)		
	H	M	R・J・未		多い	普通	少ない	S造(H+H)	コラムH造	SRC造
福岡	6～12	3～6	1～3	90～100		○		210～260	210～260	—
佐賀	6	3～4	1～3	80～100		○		200～220	195～260	—
長崎	6～10	3～6	—	90～100			○	220～260	210～260	—
熊本	5.1	2.9	3.3	97.5			○	—	220～240	—
大分	6～10	3	—	80～100		○		220～260	200～280	—
宮崎	2～13	5～6	1～3	70～120		○		186～260	190～270	240～260
鹿児島	4～12	1～5	1～3	80～100			○	200～270	200～280	
沖縄	2～3	2	—	70～100		○		250～280	240～270	

(上記項目の内、③については該当する項目に○を付けて下さい。)

(C)

県名	① 今後の景気動向と見通しについて	② 業界対策についての提案事項
福岡	・報告件数が多くなっている。手持ち工事量としてはグレードに関わらず多く堅調に推移し、どこも忙しい状況である。	・適正価格の受注、会員相互の協調、情報の共有化の推進。 ・人材確保(若手労働者の雇用)
佐賀	・材料納期遅れによる工場生産性の低下が懸念(特にBCP) ・引き合いも多く、今後も堅調に推移するもよう。	・今の良い状況を維持し、安値受注をしない。
長崎	見積り件数は少ないですが、各社共年内は工事量確保し忙しい状況です。	人材育成、人手不足対策
熊本	災害復旧工事や耐震補強工事等で手持ち工事量が多い状態が続いている。	—
大分	◎鋼材、ボルト等の入手難が問題だ。◎来春までは物件が十分にありそう だ。◎引合は鉄骨は少ないが、プラント関連工事が多い。◎若干単価が下 がってきた感じがしますが仕事量はあるので下げないような努力をしていき たい。	◎共積会の競合情報をもとに連絡を頻繁に取り合うことに尽きる。 ◎各FABが単価を下げないようにして頂きたい。
宮崎	・全グレードで手持ち工事量、稼働率が上昇しており、単価も一定の価格を維持している。この傾向はしばらく続くと予測される。	・S造の推進及び認定工場のPR活動と共同受注の推進 ・適正価格による受注契約(採算性の追求)
鹿児島	見積りが少ない。人手不足も顕著。8月に集中している感じで、その後が心配。	国はもっと外国人雇用の規制緩和に動いてもらいたい。
沖縄	・見積り件数は少し減ってきている。図面承認及び現場施工の遅れなどで手持ちが多く、工場稼働に影響している。	・情報の共有化及び適正価格での受注。

九州支部状況報告

(平成30年8月分)

(A)

提出日:平成30年9月5日

県名	① 県内の活動状況	② 支部活動状況
		活動要旨
福岡	8/2 理事会・例会(全体会議) 8/20 福岡県建築鉄骨協議会 8/28.8/31 性能評価工場審査	8/21 第3回全構協九州支部理事会 8/21 全構協と支部役員との懇談会
佐賀	8/25 建産連主催 国政報告会(山下、佐藤、足立議員)出席	
長崎	8/2 長崎県建築鉄骨研究会第1回専門委員会開催	
熊本	8月7日 理事会開催、8月22日 熊本県鉄骨問題協議会開催	
大分	8/2三役会、理事会、認定部会 8/24 第2回青年部会	
宮崎	1日:安全パトロール(2社) 3・7・9・28日:認定立会業務 4日:青年部会幹事会・懇親会 24日:JASS6改定講習会 29・30日:市長(3市)への要望活動	
鹿児島	7日性能評価工場審査、9日性能評価支援パトロール、18日理事会・北薩支部交流会、27・29日性能評価工場審査	
沖縄	8/7:定例理事会、15日:定例営業部会、20日:建産連第2回役員会	

(B)

県名	① 手持工事量(ヶ月)			②稼働率 (%)	③ 見積物件数			④受注価格(単位:千円)(建方=含む)		
	H	M	R・J・未		多い	普通	少ない	S造(H+H)	コラムH造	SRC造
福岡	6~12	3~6	1~3	90~100			○	210~260	210~260	—
佐賀	6	3~6	1~4	80~100		○		200~250	200~260	—
長崎	6~10	3~6	—	90~100		○		220~260	220~260	—
熊本	5.4	2.8	3	98		○		—	204~292	—
大分	7~10	3	—	90~100		○		220~260	200~280	—
宮崎	3~12	5~6	1~3	90~100		○		188~270	192~270	240~260
鹿児島	4~12	1~5	1~4	80~100			○	200~270	200~280	
沖縄	1.5~3	2	—	80~100		○		250~290	240~280	

(上記項目の内、③については該当する項目に○を付けて下さい。)

(C)

県名	① 今後の景気動向と見通しについて	② 業界対策についての提案事項
福岡	・見積物件は少ないが、手持ち工事量としてはグレードに関わらず多く堅調に推移し、忙しい状況である。	・適正価格の受注、会員相互の協調、情報の共有化の推進。 ・人材確保(若手労働者の雇用)
佐賀	・材料納期の長期化、人手不足による現場の遅延が出ている。 ・工事量は多いが、鋼材、ボルトの不足で工程に遅れが出る。	・共積を活用し、情報を共有する。
長崎	見積物件数が少し多くなっている。Hグレードで来春まで手持ち工事を確保している。Mグレード以下も年内は手持ち工事あり、どこも忙しい状況です。	適正価格での受注、情報の共有化の推進。
熊本	引合い工事・手持ち工事共に一定の水準で安定している。	—
大分	◎仕事量は多い。年度末まではすでに決まっている企業も多い。来年度も多いと思う。◎仕事の依頼物件が多い。来年2月までは受注有り。	◎共積会の利用
宮崎	・運送費に加え、鋼材・副資材価格の動向に注意が必要。鋼材の高騰は将来のS造離れに繋がりがかねない。	・S造の推進及び認定工場のPR活動と共同受注の推進 ・適正価格による受注契約(採算性の追求)
鹿児島	仕事量に対して人手が足りない。物件の引き合いは増えて来ているが、材料不足が足かせになりそう。	
沖縄	・見積物件数は多少多くなっているが、特殊鋼材、HTBなどが入手困難で工期、建方日を確認しながら営業活動を行っている。	・情報の共有化及び適正価格での受注。

共同陳情実施報告

平成30年9月20日

平成30年度 陳情活動について

業界の状況・実態について、設計会社・ゼネコン・高炉メーカー・デベロッパー各社にご理解、ご協力を頂くべく、(一社)鉄骨建設業協会と共同で、陳情活動を実施した。内容は下記の通りです。

記

1. 実施日程

- ・平成30年7月17日(火)～8月7日(火) 【東京地区】
- ・平成30年7月30日(月)～8月1日(水) 【大阪地区】

2. 陳情先

[設計事務所] 日本設計、三菱地所設計、梓、山下、松田平田、日建東京、久米設計、NTT ファシリティー、日建大阪、安井大阪

[ゼネコン] 大林(東京、大阪)、大成(東京)、竹中(東京、大阪)、清水(東京、大阪)、鹿島(東京、大阪)、戸田(東京)
前田建設、東急建設、西松建設、奥村(大阪)、
銭高組(大阪)

[ゼネコン団体] 日本建設業連合会、全国建設業協会

[高炉メーカー] 新日鐵住金、JFE スチール、神戸製鋼所

[デベロッパー] 森ビル、住友不動産、三菱地所、三井不動産

[他団体] 日本建築構造技術者協会(JSCA)

3. 陳情メンバー

[全構協] 米森会長、村山副会長、永井副会長、高橋副会長、事務局(齊藤専務他5名)

[鉄建協] 田中会長、深澤副会長 以下 理事、運営委員、事務局(3名)

4. 陳情項目(内容) 別紙

以上

平成30年度 陳情項目(内容)

<ゼネコン及びゼネコン団体>

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| 1. 契約時工期・工程の厳守 | 前年度有 |
| ① マスター工程表に基づいて作成した鉄骨製作工程表の合意と遵守 | ↓ |
| ② 工作図の早期確定に向け、設計図書の精度向上と関連情報の早期決定 | ↓ |
| 2. 製品輸送に関する諸問題についての速やかな対応 | 今年度新規 |
| ① 製品搬入日程の早期確定と厳守 | ↓ |
| ② 車両入場指定時間の厳守、タイムリーな荷取りと車両解放 | ↓ |
| 3. 追加変更工事(製作、現場施工共)の書面による適正な指示と評価 | 前年度有 |
| ① 協議合意による書面での指示 | ↓ |
| ② 月毎の早期精算及び適正な評価(常備工事含む) | ↓ |
| 4. 鋼材費、副資材費の変動に対する適正な精算 | ↓ |
| 5. 働き方改革に関する動向等について(意見交換) | 今年度新規 |

<設計事務所及びJSCA>

- | | |
|---------------------------------|-------|
| 1. 製作工期・工程の厳守に向けたお願い | 前年度有 |
| ① 設計図の精度・整合性の確保と速やかな質疑回答 | ↓ |
| ② マスター工程表に基づいて作成した鉄骨製作工程表の合意と遵守 | ↓ |
| 2. 働き方改革に関する動向等について(意見交換) | 今年度新規 |

<鋼材メーカー>

- | | |
|-------------------|------|
| 1. 鋼材供給の円滑化(納期厳守) | 前年度有 |
| 2. 鋼材の安定価格での供給 | ↓ |

<ディベロッパー>

- | | |
|--|------|
| 1. 「鉄骨工事工程を遵守するための用途・仕様・意匠などの早期決定」について | 前年度有 |
| | 以上 |

平成30年度 陳情実施状況（要点・トピックス）

陳 情 先	回 答 内 容 等
設計事務所	＜要望内容＞ 製作工期・工程の厳守に向けたお願い 1. 設計図の精度・整合性の確保と速やかな質疑回答 ・鉄骨製作に必要な情報を網羅した設計図の早期提示 2. マスター工程表に基づいて作成した鉄骨製作工程表の合意と遵守 ・工作図確定に向けた関連情報の早期決定 3. 働き方改革に関する動向について（意見交換） ＜設計図の精度・整合性の確保＞ ・設計図が遅れると、輪をかけて鉄骨製作開始が遅れる。材料納期の問題で、図面承認 を早くする必要性は感じているが、材料入手の期間が短くなれば、図面承認に時間をかけられるので、ミルにも陳情に行くべき。 ・新規のS造案件は、材料納期を勘案して着工時期を設定しているが、あまり長いとRC造にという話が出てくる。 ・ファブの生産能力を、上げる手立てはないのか。⇒部分的には設備更新をして能率アップしても、入職者が少なく将来が見通しづらい中で、なかなか全体の生産能力を上げる設備投資には踏み切れない。 ・図面の不整合やそれに伴う設計変更が、納期遅延、生産性低下につながっている。チェックしているがなかなか解消できない。 ・設計作業は、現在、鉄骨に詳しいベテランに全体を管理させ、若手を指導しながら対応している。外装、設備が決まるのが遅い為、見切り発車の構造図で設計変更が発生している。また、不整合は、意匠図、構造図間であり、両図の重ね合わせをしてチェックしているがなかなか解消できない。外装メーカー含めた、最適な擦り合わせのタイミングを探る必要がある。 ・今後、鉄骨教育をどうしていくかは、準大手以下では、切実な問題だ。 ・設計承認がおくれるのは、設備スリーブ、外装ファスナーの決定が遅い為だ。その決定をリードするのはGCであるが、全体をにらんでできるキーマンが少ない。 ゼネコンさんからは、VE と称して、数量は10%ダウン、溶接(手間)は10%up という様な、不効率な発注が出ている。 ＜マスター工程表に基づいて作成した鉄骨製作工程表の合意と遵守＞ ・また、設備メーカー決定に本社購買の了解があるなら、その手順と時期もマスター工程表に表現して管理項目とすべきである。 ・現場では、マスター工程に基づいて回答、承認している。守られていない現場があれば、具体的に言ってもらいたい。全国の情報共有化会議を実施しており、具体化により結果に結びついており、意匠、構造、設備、GCに展開して、品質向上に繋がっている。現場トラブルは、社内で共有化してゆきたい。 ・マスター工程表に基づく鉄骨製作工程表は、徹底して出して欲しい。設計側からもサポートする。

設計事務所	・工程表の件は、2～3 年前から相談させて頂いているが、実際には実施率では 2 割程度とやや低調な状況。 <材料需給等> ・BCP、厚板の入手に時間がかかっているらしいが。 ・材料納期の件で、発注者にも意識をかせてもらわないといけない時期に来ているので、そういう発言をしている。しかし、今は、S造にすることの工期短縮メリットがなくなり、どちらでも設計できる用途は、元のRC造に戻りつつある。 ・材料の納期は、コラムで10～12ヶ月とのことだが、何がネックだ。 ・プレスコラムの納期は、10～12ヶ月かかっている。プレスコラムに代わって四面BOXを使わないといけなくなる。問題あれば、その都度、具体的に挙げて欲しい。 ・BCPコラムメーカーが少ない。能力の不足が顕在化している。 ・材料の問題もあり、昨今はロールの期間も長期化の傾向あり。 <BIM 対応等> ・BIMを始めて、構造計算から構造図作成の連携が出来るようになってきた。主要構造は問題ないが、附帯鉄骨で意匠等の決定遅延により落ちることがある。意匠図、設備図との整合性確保は始まったばかりで、今後の課題である。BIMデータの活用で、ファブ業務の省力化に繋がるようなら、データ提供をしたいので 申し出て欲しい。 ・不整合の問題等に対して、BIMの効果、浸透はどうか？→まだまだ、浸透していない。ゼネコンからの情報の提供も十分ではなく、一貫して使用出来る段階ではない。 ・BIMは海外では進んでいるが、国内は緒についたばかり。地所設計もBIM(REVIT)をモデルケースで進めているが、GC各社ばらばらで困っている。GCとファブでBIM研究会を立ち上げてみてはどうか。ファブのものづくりを主体とした試行をしている段階だ。今はBIMメーカー同士の互換性がないので、それが問題だ。 ・BIMでも、意匠、構造で整合性をチェックすることになっているが、片方を変えてチェックが漏れると、また不整合が発生している。 BIM の活用は進んでいるのか？→まだまだ、活用出来るレベルまでは到達していない。但し、将来的には、中核となるシステムなので、作りこんで行くしかない。 <働き方改革に関する動向について(意見交換)> ・海外技能研修生については、補助的に自動機器のオペで活用しているが、基幹要員にはなっていない。ベテランの中途採用は難しいので、60 才越えの再雇用と新入社員の採用育成で乗り切る予定だ。 ・図面作成要員も不足している、CADオペはなんとかなっているが、現場と打合せし総合的に調整できる人材が不足している。こちらが重要だが、育成には時間がかかる。 ・GCは、4週 6 閉所の動きがあるが、意見交換してうまくファブも対応していきたい。 ・労働時間短縮が最優先となり、S造が分かる技術者の減少を気にしている。10 年後にS造のディテールが引き継がれるか、ファブ業界も、今、景気の良い時に、S造の若手技術者の育成をして欲しい。女性であることで設計しやすい用途があり、私は社内で積極的に採用を提案している。育休や職場復帰、短時間勤務、福利厚生などの制度は整えている。
-------	---

設計事務所	・ファブについては、ゼネコンを中心とした客先の意向の影響が非常に大きく、難しい。 ・ゼネコンは 2021 年の 4 週 8 閉所を目指し活動している。 ・労働時間管理については、会社からかなり細かく管理を求められている。 ・GCは4週6休とか言っており、ファブも働き方改革をすべきところだが、製造所としてのファブは納期に間に合わすのが一番なので、図面承認がおくれ、固定ずれになっても押し込まれてなかなか休みにはできないし、残業も減らせない。 ・構造で約10%、全体で25%程度だ。今後、生産年齢人口が減っていく中では、女性の採用を増やしていく必要がある。そのためには、女性が働きやすい環境を整えていくことが必要で、テレワークや育休制度とかを整備していく必要がある。 ・働き方改革もあり、施主からの無理な要請は、業務を断る勇気も必要だ。 ・労働基準監督署が入った。(月)までの仕事を(金)に出すことは止めようと。 ・施主へ状況説明し、工程上の配慮をしてくれは聞き入れてくれた。⇒それがどういう形で降りてくるかが問題だ。(金)に言って⇒(月)に報告の話もまだ残っているし。 ・GCの現場閉所の話は、もともとの工期の話からしないと進まない。⇒GCの職員や職人が休むことはできても、閉所は難しいのではないかと。ファブは、現場代理人が休むと溶接ができなくなるので休めない。 ・工期・工程の短縮と働き方改革は一体のもの。 ・建築業界全体として取り組むべきテーマだが、そもそも発注者側の意識改革、発想の転換が必要。結局、施主さんは、工期は短く、コストは安くという事がテーマだから。最終のエンドユーザーの意識が変わらないと進まない。エンドユーザーが変わらないと、施主も変わらない、ゼネコンも変わらないとなる。働き方改革を進める、意識の高い企業が、社会から求められる、社会的要請に則した企業という評価にならないとダメ。 ・同じ課題が議論されている。達成が難しいという事。議論を継続して行くしかない。 ・こうして毎年の活動として、陳情も継続しているので、その悩み、課題に関して、理解や認識が浸透してきた。 ・高規格鋼材の評定制度の状況は。本鋼材は普及が進みつつあるが、地方物件で鉄建協Sファブが対応できないものでも、Hファブで対応できるようにしたもの。 東京一極集中の傾向は依然として強い。需要の偏在は、いろいろと問題がある。 ・会話を継続、認識を共有化させて行く事が重要。
-------	---

平成30年度 陳情実施状況（要点・トピックス）

陳 情 先	回 答 内 容 等
ゼネコン 日建連 全建協	＜要望内容＞ 1. 契約時工期・工程の遵守 ・マスター工程表に基づいて作成した鉄骨製作工程表の合意と遵守 ・工作図確定に向けた設計図書の精度向上と関連情報の早期決定 2. 製品輸送に関わる諸問題についての速やかな対応 ・製品搬入日程の早期確定と厳守 ・車両入場指定時間の厳守、タイムリーな荷取りと車両解放 3. 追加変更工事（製作、現場施工共）の書面による適正な指示と評価 ・協議合意による書面での指示 ・月毎の早期精算及び適正な評価（常備工事を含む） 4. 鋼材費変動に対する適正な精算 5. 働き方改革に関する動向について（意見交換） 6. 建設キャリアアップシステムの動向について ＜工期・工程の遵守＞ ・設計側が、PC壁の専門業者が決まらないから図面が固まらないうと良く言うが、それは事実と反する。そうではなく、業者が決まった後、設計者が設計変更をするので、図面承認が遅くなるというのが実際だ。意匠、設備、構造の図面の食い違いや手抜き設計により詳細図がないというのも、承認が遅くなる原因だ。いずれも川上側に問題がある。 ・マスター工程表の遵守、相互の合意については、必ずしも十分な運用が出来てない。設計事務所からすると、施主さんとの関係性の問題、付帯等の決定タイミングはゼネコンの決定次第との見解。メインの加工の部分というより、付帯や周辺の細かい所の決定が遅れる事が問題。 ・マスター工程表に対する取組は各社毎に違う。但し、ゼネコンもファブも工程遅れ等により、負荷が掛かっており、協力して対応する体制が必要。 ・マスター工程表の運用は、必ずしも十分に浸透していない。大手設計事務所でも変更指示が出て困っているが、最近は、かなり意識変化が進んでいる。こういうお願いの主旨が大分浸透してきた成果か。 ・マスター工程表の回収率が低い要因は、予定通りに進まない場合の責任の所在の問題と、設計事務所の協力度合いに課題がある。 ・設計変更柔軟に対応しないことも必要ではないか。 ・鉄骨部材に付けるものが、格段に増えている。そのため、tonあたりの工数が大幅に増えており、昔ほどton数をこなせないはずだ。従来の能力 ton/年とは変わってくるので、影響が大きいと思うが、その低下した能力を公表してはどうか。そうすれば、GCはその能力前提で、ファブの選定を行うことになり、今よりは繁忙度が下がるはず。 ・設計施工（社内）なら、何とかするが、（社外）設計事務所については、お願いするしかない。

ゼネコン 日建連 全建協	<製品輸送に関わる諸問題について> ・特車申請は、通常は4、5ヶ月かかるが、工程がずれた場合、エリアごとに調整できる場合があるので、現場と協議要。荷取り時間に遅れないように、早めに現場到着し待機をさせているので、運搬効率は悪い。GPSで搬入作業の調整を始めた。全国搬入会議で問題提起。 ・トラック不足については、十分に認識している。特に PC 業者が厳しいらしい。簡単には解決しないが、いろいろな工夫の仲で、曜日、特に月曜日を外すと改善が進むのか？ ・車両の待機場所設置プロジェクト(都内3ヶ所)を進めている。今は、周辺をぐるぐる回って危険だ。鉄骨トレーラー、生コン、各種資材の待機を想定している。ステーション、休憩所、プールあり。予算1.5億円。 ・輸送問題については、十分に認識している。トラックも運転手も不足している、加えて待機場所もない。 ・輸送問題は深刻、荷卸がなかなか進まない時もあり、いかに拘束時間を短くするかについて、工夫が求められる。 ・なるべく早く荷取りをするように指導しているが、臨機応変に対応して欲しい。(鹿島) ・輸送の問題は、直前のキャンセルについてのその費用の問題も大きい、結局キャンセルするずらした物を運ぶ術がないのが問題。現場に対しては、そこどころ(次が無い)をきちんと、伝える様にしている。 <追加変更工事の対応> ・建設業法で定められている事であり、コンプライアンスの問題もあり、重要性は十分に認識している。 ・書面での指示は、当然だ。ない場合は、やらなくてよい。 ・追加工事等によるコストの変動と精算の問題は、頭が痛い問題。 ・追加工事の都度精算については、お互いの意識の問題。特に労務費については、きちんと対応する事が大切。今時の現場所長は、理解しているはず。 <鋼材費(単価)、材料供給関連> ・GCも請負契約なので全てに対応することはできない。小幅変化はミルと交渉して吸収して欲しい。大幅な変化があるようなら、国に陳情して通達を出してもらうような動きがないと、GCも動けない。 ・最後にヒアリングして請書に反映していくという方針で進めているので、問題ないはずだ。 ・BCPの製作能力不足対応は？ ・鋼材費の上昇に対してスライド条項をお願いされても、こちらにスライド条項がないので受入れられない。見積は、将来の鋼材価格の変動を見込んでやってほしい。 ・材料の納期問題もある。コラムの特殊材は、納期1年という話しも聞く、またハイテンションボルトの納期が4ヶ月位という状況もある。 ・プレスコラムの納期は、1年と聞いている。近々は、四面BOXに設計変更する話がでている。さらに、納期長期化が続くようなら、四面BOXも製造能力が限られているため、オフィスは、柱RCー梁S構造になるかもしれない。 ・鋼材費高騰等の対応については、ゼネコンのリスクで対応するしかないのが実態。客先は、受けてくれない。 ・材料ネックで工程遅れが生じる事もあるが、材料メーカーへの対応はどうなっているか？
-----------------------------	--

ゼネコン 日建連 全建協	・1プロジェクトごとに価格を設定してもらっているが、最近は大規模工事が多い為、工事の途中で変動するのは仕方がないが、現場とよく話をして欲しい。 ・鋼材費、副資材費の件は、基本契約に従い処理をする事になるが、実際問題としては処理が難しいのが現実。客先を説得出来る、客観的かつ具体的な情報が必要。内容が理解出来るが、情報がない事には、関係先を説得する事も出来ず、悩ましい。何か、説明材料をもらえればと思います。 <BIM 対応> ・施工段階でBIMをはじめるタイプでは、社員の能力にばらつきがあり、時間がかかる。しかし、これからの情報媒体の主流となる力を秘めているので、力を入れてもらいたい。2次元より3次元の方が、チェックがし易い。外壁PCのチェックに向いている。 ・BIM の活用は、まだ十分に活用できるレベルにはない。 ・設計施工物件でBIMを使い始めている。主体フレームは、構造計算ソフトからBIMの3Dモデルまで連動しているが、付帯情報にまでとなると専門業者の範疇になり、連動が簡単にはいかない。 ・BIM は、主構造の部分ではそれなりに使えるかと。但し、付帯等の情報が揃っていない事が問題で、活用が難しい。 <現場が抱える諸問題> ・鷹・土工の業界団体である日本躯体連合会、日本機械土工協会を紹介するので、直接に話をしてみてもどうか。 ・GCお抱えの鷹工による、ファブの現場代理人へのパワハラ行為は、ないと信じてはいるが、それ以外の問題も含め、社内に周知し、チェックしていく。 ・昨今は同じ内容でも、辞めるという話しになる。今後は、来る人もいなくなる。 ・鷹からのパワハラの問題は、基本現場で解決していくしかないと思うが、ひどいものは、きちんと話をあげて欲しい。 <働き方改革の動向について（意見交換）> ・ファブ側のCAD 図対応要員不足という状況は変わらず、高齢者の雇用延長でしのいでいる。入職者の低迷という中では、働き方改革を通してファブ業務の生産性向上に取り組む必要がある。 ・外国人実習生は、基幹労働者になりたいが、5年経過後に一度帰国すると戻ってこないため、実習生とまりとなってしまう。家族帯同でないのが戻らない大きな理由なので、制度設計の見直しを望む。 ・日建連のメンバーなので、休みにしなければいけない。2019年度は、4休6閉所を予定している。そうしないと、若い人が来なくなると危機感を持っている。すべて工期とかコストとかをオンすると、仕事が取れなくなる。それを回収する為に、ロボット化などで生産性を向上させる必要がある。 ・働き方の問題は、今後の人口減少もあり、関係者の共通認識を持って進めないと、動かない。社長からの号令もあり、会社全体として機運が盛り上がっている。まずは、4週6閉所を実現し、4週8閉所を目指したい。 ・当社は、4週8閉所で進めようとしている。賃金は6/5倍になる。施主に要求するかどうかは
-----------------------------	---

ゼネコン 日建連 全建協	結論がでていないが、下請業者には払うつもりだ。溶接工が不足している。溶接を使わず、ボルトだけの構造は考えられないだろうか。⇒高強度材料になるとスプライスとブラケットが大きくなり、運搬効率が低下する。現場溶接方式の、ノンブラケット柱方式の運搬効率が高い。 ・工事現場でウレタンの火災事故が発生した。当社では不燃性の断熱材の研究をしており、高価ではあるが、これを機会に切り替えてゆく考えだ。 ・日建連は、4週8閉所を目指すとやっているが、当社では6閉所位が具体的な目標。今年については、5閉所を達成したい。 ・働き方改革については、タイムスケジュールを作って対応している。今年は、4週5閉所を最低限とし、実質的には6閉所を目指す。 ・働き方改革の対応は、まずは第二四半期から、4週6閉所目標。実際には、4週6閉所で、受注出来る物件は、少ない。取引先も認識しているが、納期は守ってくるという事。 ・働き方改革関連としては、関西支店では、4週8休を前提に、見積り提出を進めている。関西支店＞鹿島全体＞業界全体という感じで、より高い目標を掲げ進めている。 <建設キャリアアップシステムの動向について> ・資格、保険、履歴を見える化するため、職員、専門業者を対象に2021年3月までに全員の登録を目指す。 ・2023年3月までに全員の登録を目指す。 ・鉄骨(本締め、溶接)が、キャリアアップシステムの登録基幹技能者となっていないならようなら、その資格を組み込む動きを始めたい。 ・システムは、必ずしもうまく動いていないと思う。但し、国交省、日建連の動きには、追随し、適切に対応する。 ・キャリアアップシステムは、利用するメリットが認識されないと普及しない。 ・10月から、1億円以上の現場で簡易型カードリーダーを導入する。日建連の項目に、鹿島独自の項目を加えて、活用していく。2023年3月までに全員の登録を目指す。 ・キャリアアップシステムは、いろいろと温度差もある様だが、まずはスーパーゼネコンで対応して行く活動。 ・工期・工程の遵守は、以前からお願いしているが、浸透は十分でない。 ・働き方改革対応は、会員41社で協議をしながら、当面4週5閉所を実現し、6閉所を目指す。7、8閉所に向けては、目標を立てて進める。 ・キャリアアップシステムは、仕組みの構築は進んで来たが、各社で思いの違いもあり、方向性を確認しながら進める。とにかく、将来の人のための活動をやらないと、業界の将来はない。 ・働き方改革への対応は、建設業として生き残りをかけて対応すべきテーマ。当面は、月2日プラスを目指し、ゆくゆくは4週8閉所を目指す。 ・キャリアアップシステムは、「機構」からの委託を受けている立場もあり、促進を図っている。 ・工期・工程の厳守についても、引続き展開を進める。
-----------------------------	--

平成30年度 陳情実施状況（要点・トピックス）

陳 情 先	回 答 内 容 等
デベロッパー	＜要望内容＞ 「鉄骨工事工程を遵守するための用途・仕様・意匠などの早期決定」について ＜工期・工程の遵守＞ ・都内を中心に、数万トンの超大型物件が数件あるが、これらを納期通りに円滑に進めるためには、鉄骨工事が要になると認識している。 ・建物の竣工時に、その時点での最高のパフォーマンスの物件を提供する必要がある。従って、工期の長い物件では、性能の良い機器、建材等が、設計以降に出現した時は、それを採用する。これに伴い、躯体の変更が必要になる事は避けられない。 ⇒ それでも、前広に情報をいただければ、負荷が減る可能性もあるので、施主、設計事務所、ゼネコン、ファブで協力して改善したい。 ・生産性改善の取組みとしては、MIB 活用が考えられるが、現在のところ、データ精度の問題等があり、生産性向上の戦力にはなっていない。 ・能力確保、生産能力の増強策について ⇒ 人手不足の環境もあり、単なる設備増強だけでは、実質的な能力増強に繋がらない。Sグレードファブは満杯だが、中位以下のファブには余力もあり、ファブの連携により全体の需要に応える仕組みを作って活用を開始した。 ・将来的には、働き方改革の進展で、4週8休が定着すると想定し、そういう前提で進める様、関係先を指導しているが、デベロッパー間でも、各社考え方、方針は違う。 ・施主含め、設計会社、ゼネコンともに、個々の能力が伸びているとは言い難い。BIM を含めた、IT の活用、上流からの改革、行政への働きかけ等、トータルの施策が必要。 ・施主の立場としては、用途・仕様に関しては、早期に決定し、設計会社、ゼネコンに伝えていと認識している。状況は理解するが、施主として、何をすべきかがはっきりしない。 ・図面製作は、外国人が担当？ ⇒ 基礎的な部分は外国人が担当する場合もあるが、その場合でも、最終確認は、日本人技術者が行う。 ・ゼネコンは、重量を減らすことに全精力を傾けている。このため、工数のかかる複雑な製品になっており、それで製作工期が延びてしまうことになっているのに理解してもらえない。GCも鉄骨加工の中身がわかる人が少なくなっているためだ。 ⇒ ゼネコンの設計施工案件では、トン数が少ない方が受注しやすいので、鉄骨重量を減らすことに躍起になるのは理解できる。以前、ファブの生産性を上げる構造設計を依頼したことがあるが、定着はしなかった。構造設計のやり方による、鉄骨重量の変化とコスト、工程の増減の関係が明確になっていないためだ。もし、鉄骨重量は増えるが、工数が減って安くなるよと、ファブが提示できればよくなっていく。施主は、構造性能があれば受け入れるので、是非提案して欲しい。

	・人手不足の状況は。工場のCAD要員が不足しているので、工程に影響が出ていると聞いているが？ ⇒T:建方指導員、現場溶接工が不足している。CAD要員も不足気味であるのは確かだが、それより、ゼネコンよりの設計図提示、工作図承認のずれ、設計変更が、製作工程のずれに繋がりがり、工程への影響となっているのが大きい。提出した鉄骨工程表の図面提出、承認時期の遵守をするようにGCへ指導願いたい。 ・鋼材費変動による精算について。 ⇒鋼材の値上がり分のみの請求なのか、ファブには支払われたのか、施主の立場では、確認の手段がなく、実際の運用は難しいのでは。 ・工程遅れ等の状況は理解をするが、設計変更も好んでやっている訳ではなく、よりいい物を求めてやっているなので、将来的にもゼロにはならない。 ・BIMは、今は試行段階だが技術革新が行われ、いずれは全面導入されるだろうから、積極的に取組んでもらいたい。 ・ビルは鉄骨がないと成り立たない。鉄の重要性は重々承知しているので、ファブとは力を合わせて、WinWinの関係を構築していきたい。
--	--

平成30年度 陳情実施状況（要点・トピックス）

陳 情 先	回 答 内 容 等
高炉メーカー	<要望内容> 1 鋼材供給の円滑化（納期厳守） 2 鋼材の安定価格での供給 ・H、BCP、BCR 各品種総じてタイト、一部納期調整をお願いしている状況。厚板も昨年は、大分のミルトラブルもあり、ご迷惑をかけたが、復旧後もタイトな状態継続。 ・その他需要分野においても、国内外含め、概ね堅調。 ⇒短納期の案件も多いので、地方対応含め、配慮をお願いしたい。 ⇒価格については、少しずつ上がると、対ゼネコン的には、動き難い。 ・需給的には今年は非常に厳しい、2007年と似ている。 ・鉄源は、150万トンのレベルで不足している。豪雨災害の影響もあり、シンパを守るので精一杯、一見の客にはとてもまわらない。 ・価格は、2016年上期比で、一定のアップまでは確保するつもり、ゼネコンにも概ね浸透しているはず。コストアップ要因と設備投資で、かなりの額が必要。 ・デリバリーについては、情報交換を密にしながら進めたい。オーダーの平準化をお願いしたい。 ・粗鋼は、1億5百万トンの規模。各需要分野、概ね堅調。分野によっては、リーマン前のレベルまで回復。但し、従来に比べると安全、環境、設備の老朽化等、製造上の制約が増えているので、規模の割にはタイトな状況。 ・コストについても、主原料、副資材も上昇、物流費もご承知の様な状態で、もっと言えば、そもそも運べない様な状態。 ・過去にもタイトな状態はあったが、その時は残業、休出して対応した。今はそうはいかない。建設業界のしわ寄せが、ファブに来ている。 ・働き方改革については、マストな取組み。 ⇒働き方改革は、生産性の改善がポイントであり、神戸さんには、鉄だけでなく、溶剤、機械分野の開発、情報・データの連携も含め、トータルの生産性改善をお願いしたい。

平成30年度 陳情実施状況（要点・トピックス）

陳 情 先	回 答 内 容 等
J S C A	＜要望内容＞ 製作工期・工程の厳守に向けたお願い 1. 設計図の精度・整合性の確保と速やかな質疑回答 ・鉄骨製作に必要な情報を網羅した設計図の早期提示 2. マスター工程表に基づいて作成した鉄骨製作工程表の合意と遵守 ・工作図確定に向けた関連情報の早期決定 ＜工期・工程の遵守＞ ・S:構造は一番初めに動くが、意匠、設備はまだ時間的余裕があるため、なかなか決めてくれない。施主が少しでもいいものを求めるため、間に合うかのギリギリの所で決まり、設計の変更に繋がっている。 ・S:実プロでマスター工程表通りに進捗しているものは少なく、後ずれするのが普通だ。鉄骨製作工程表は、監理者が承認するものではないので、承認欄はGCのみとし設計者の承認欄を削除してもらいたい。 ・S:今は、設計BIMと施工BIMはほとんど繋がらないが、国土交通省がこれをつなげようとしている。 今後は、①BIMで意匠、構造、設備の食い違いをチェックする、 ②設計、GC、ファブがBIMデータで連動する、方向に動く。 ・S:日建連は、10年先の技能者数の予測をしている。現在の330万人が、放置すると130万人が減り、働き方改革により90万人が戻るなので、その結果、40万人(-13%)が減少する。 機械化、工業化を入れていかないと、建設業の将来は期待が持てなくなる。 ・S:陳情先に「日本建築家協会」を加え、情報提供をしてファブの現状に対する危機感を共有しておくことが重要だ。 ・S:海外ファブで、設計⇒施工⇒ファブとBIMデータ連動が一気に進みそうな気配がある。 そうなると、仕事の進め方が、日本的進め方から契約的進め方に変わってゆくだろう。 その時、国内ファブは、BIMデータ連動対応のハードウェアで各社の足並みが揃うだろうか。 ⇒T:会社毎にCADソフトが異なり互換性がないし、2次元しかできないファブが殆どだ。1次加工までそのデータが使えるかどうか分からない。 ファブの規模によって仕事のやり方が違い、下請けもありまだら模様の中では、一気には進まないだろう。 ・S:設計変更は、それがお金、工期にリンクしないと無くならない。 それぞれの立場で、出来ることをやっていくことが大事。要望するだけでなく、「このタイミングを逸したら、変更はもう対応できない」と毅然と言ってもらわないといけない。 ・S:海外ファブは、ハードウェアの共通化、BIMの連動化はきっとやると思う。 国内ファブも、業界でのプロモーション活動の強化に加え、ハードウェアの共通化によるBIMの連動化対応に、引き続き取り組んで行くことが重要だ。